

育教の兒幼

號七第 號 月 七 卷九十三第



內校學範師等高子女京東
會協園稚幼本日

倉橋惣三編 (新刊)

新體幼稚園唱歌

四六倍判
定價(送料共)
金七拾錢

目 日本国旗日の丸の旗
次 道ぶしん
倉橋惣三 作曲
井上武三 作詞

うびんやさん 倉橋惣三 作詞
渡し場の船頭さん 倉橋惣三 作詞
火消しのなぢさん 倉橋惣三 作詞
弘田龍太郎 作詞
中山晋平 作詞
倉橋惣三 作詞
小林つや江 作詞

日本幼稚園協會編 (新刊)

幼稚園新唱歌

四六倍判
定價(送料共)
金五拾錢

目 だか
次 雨
山松耕子 作曲
小杉山米子 作詞

ほたる 青山綾子 作詞
ふしん場 小松耕輔 作詞
氏原銀 作詞

〇この二つの新刊幼稚園唱歌集は、幼稚園の爲に新しい歌曲を求めて居らるゝ方々に必ずや充分歓迎せらるゝことを期待してゐる。

日本幼稚園協會 保育講習會

期 間 七月二十七日より同三十一日迄(五日間)
 會 場 東京女子高等師範學校 (東京市小石川區大塚町)
(市電窪町停留所)

科目及講師
 一 挨拶

東京女子高等師範學校長 本會々々 下村壽一君

一 幼稚園保育本論 (十時間)

東京女子高等師範學校教授 同附屬幼稚園主事 倉橋惣三君

一 幼稚園に於ける遊戲實習 (十二時間)

東京女子高等師範學校教授 戸倉ハル君

一 幼兒のための簡易手技實習 (六時間)

東京女子高等師範學校 保母兼教諭 及川ふみ君

一 幼兒の屋外生活指導の實際 (四時間)

東京女子高等師範學校保母 菊池ふじの君

(二) 幼兒をたのしませる簡易な園藝

東京女子高等師範學校保母 清水光子君

時間割

月 日	時 限	入時—九時	九時—二時	二時—三時	三時—四時
七月二十七日	講倉	師橋	講清	講戸	講戸
七月二十八日	講倉	師橋	講菊	講戸	講戸
七月二十九日	講倉	師橋	講及	講戸	講戸
七月三十日	講倉	師橋	講及	講戸	講戸
七月三十一日	講及	師川	講倉	講戸	講戸

會 費 金 五 圓 (會費拂込後は御参否に不拘返戻いたしません)
 申 込 御希望の方は七月廿五日までに本會講習會係宛(東京市小石川區大塚町東京女子高等師範學校内日本幼稚園協會)に講習料を添へお申込み下さい。

御住所(受信所、奉職所名)必ず御明記置き願ひます。講習料の御拂込みは振替(東京一七二六六 日本幼稚園協會)を御利用下さい。
 講習料の受領證にかへ、會員證及び汽車汽船割引券を御送附しますから、御申込の振替口座又は爲替に、御送り先(縣、市、町、番地)を詳細に明瞭に御記入置き下さい。
 幼稚園保母、幼稚園長、幼稚園教育關係者、託兒所保母(本年は例年の文部省保育講習會が東京に開かれませんが、本會常講習會は文部省講習の場合の如く地方長官の推薦手續を要しないのは素より、地方人員数の制限もありません。御自由に本會へ直接御申込み下さい)。

宿 泊

本校寄宿舎(常構内)で女子に限り宿泊の御便宜を計ります。
 費用一泊金壹圓五拾錢(二食つき)。宿泊料は御入舎の上でお支拂ひ下さい。前以ての御支拂はお断りいたします。
 宿泊御希望の方は、聴講申込と共に本會講習會係宛必ず豫め(七月廿五日まで)お申込み下さい。(なほ敷布は各自御持参が便です)

鐵道割引特典

汽車賃五割引 (省線、社線共) ◎五割引は昭和十二年六月一日の規則改正に依り五キロ以内は通用いたしませんから御承知下さい。
 汽船賃三割引 (大阪商船 大連 基隆航路及近海郵船基隆航路)

昭和十四年七月

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
 日本幼稚園協會

文部省推薦圖書

幼兒心理學

恩賜財團愛育會
兒童教養相談所主任

山下俊郎著

四六判美裝四三〇頁
定價二・五〇
送料一・四〇

我兒の幼時を大切にすることは彼の一生を光輝あらしめることである。

本書は現代兒童心理學研究の成果を育兒の實際に適用した稀な良書である。

本書は一歳より七歳に至る幼兒の心理學を親切に、平易に解説したものである。特に幼稚園兒童については意を用ひ、玩具のえらび方、あそびせ方、遊戯の特徴、あまへ言葉の直し方等、保姆の日常必須の問題や事項が、最近の心理學的研究を基礎にして、きはめて實際的に説明せられてゐる。幼稚園の教育上保姆のなやむ問題はここに科學的な立場から完全に説明せられ、毎日の保育は自信と安心に充ちて、楽しく遂行する事が出來よう。

★序論 乳兒の心理 新生兒・感覺生活・智能の芽生え・乳兒の心理的特徴
★内 幼兒の心理 運動能力の發達・言葉の發達・空間・時間・數の觀念・記憶と注意・思考・創作・情緒生活・好奇心と興味・社會性・遊び・習慣の持つ意義・道德的發達
★容 幼兒の心理検査 精神検査の概観・現行の幼兒智能検査法・検査の結果の表はし方とその意味・精神検査に對する態度 結語 就學可能性の問題 附録文獻



(4)五三一四段九話電
番六五五六東京替振

店書堂松巖

區田神市京東
二ノ二町保神

東京昭和保姆養成所 第十回夏期保育講習會

本會開設の要旨 今や我國は興亞建設を目指して一意邁進しつゝあり、國內に於ける諸般の事業に對し十分の検討を施し舊套を脱して革進を企圖し實踐に移りつゝあり、就中幼兒教育は頗る重大視せらるゝに至れり、此の時に於て幼兒教育上必須缺くべからざる種目を捕へ之れに對し最も適當なる講師に請ひ茲に講習を開き聊國家に貢獻せんことを志す。

一、期 日 八月一日より八月五日迄、五日間

二、時間 午前八時半より十一時半まで 午後〇時半より四時半まで

三、科目と講師

1、現下の時局と幼稚園保育の實際 (六時間)

東京女子高等師範學校教授
東京昭和保姆養成所顧問兼講師

倉橋惣三先生

2、生活保育の心理的研究 (五時間)

先生は我國保育について唯一の指導者として既に周知せらるゝ所、其深き造詣を傾けて今時局と之れに對應する保育の實際につき平易に講述せらるる必ずや得る所多からんことを確信す

恩賜財團愛育會研究所々員
同兒童相談所主任
東京昭和保姆養成所講師

山下俊郎先生

3、小兒の體力増進について (三時間)

先生は最近に於て幼兒心理學(文部省推薦)の著者として又環境教育學に對し深き研究ある人、此の新らしき題目により實際的に講述せらる

厚生省公衆衛生院教授
東京市保健館長
醫學博士
齋藤潔先生

4、手技 (五時間)

曩に聖路加病院小兒科部長とし又明石町托兒所囑託として今名ありし先生今は厚生省に専ら體力の向上に力を致さる

東京美術學校出身
元昭和保姆養成所講師
武井勝雄先生

5、幼兒の音樂の導き方唱ひ方 (三時間)

先生は昨年萬國兒童圖畫協議會に我國を代表して派遣せられ歐米の狀況を視察し歸朝せられた方です

東京高等音樂學院教授
玉川學園教授
岡本敏明先生

6、
 昨年第九回講習開設の際作曲について講演せられ會員の大なる満足を受けられ其利益大なるものがありました今回は幼児の音楽及び國民歌謡のよきもの三四種を掲げて皆様に導き方唱ひ方を教授されます
保育上忘れられたる重要事項と其取扱 (二時間)
 東京昭和保姆養成所長 土川五郎先生

7、
 上は大學より下幼稚園に至る各段階に於て何れも偏知の弊に陥り顧みて始めて驚き悟つたのである、情の教育の重要な事を今更乍ら知つたのである。併し其實行は幼児教育に於て最も六ヶ敷き仕事である、無意識の内に其萌芽を養ふには如何にすべきやこの點について實際の例により基本となるべき情育の要點を述べらるべし
律動並に律動的新唱歌遊戯 (十四時間)
 東京昭和保姆養成所長 土川五郎先生

新作のもの二十種に既作中より會心の作と感したるものを加へて之を提供し練習す

- 四、會費 五圓 (區分を廢しました)
- 五、定員 各三百名
- 六、割引乗車の特點 五割引(五割引は昭和十二年六月規則改正の結果五十キロ以内は通用せず)

會費を添へて申込の方へ御送りします。七月二十日迄に御申込にならぬと間に合ひません、振替は一週間位後れて到着しますから小爲替の方が確かです

- 割引期間 七月十三日より八月七日迄(七月十三日から買へます)
- 七、會場 通用期間 乗車券發賣の日より八月二十一日迄(割引往復券は七月十三日から八月二十一日迄使へます)
- 八、入會資格 瑞穂幼稚園 東京市品川區大井原町五二〇八 省線大井町驛下車城南バスにて原又は水神前下車すぐです
 保姆及幼兒教育に當らんとするもの師範高女教員小學校教員幼稚園託兒所園長役員農繁託兒所保姆たらんとするもの
 本校寄宿舎充用 一泊二食 一圓五十錢 收容人員に限りあり必ず前以て申込まれたし
 宿舎するものは必ず敷布御持ち下さい 宿泊料は入舎の際お納め下さい
- 九、宿舎 1、一度納められた會費は理由如何によらずお返し致しません
 2、振替は東京六九二一四番土川五郎宛
- 三、注意

◎地方の自然物及び廢物利用による手技目下蒐集中なり 當養成所にて作れる手技と併せて陳列展覽に供する豫定なり
 ◎當養成所は秋の生徒補缺若干名募集す入學志望者は九月十日迄に願書提出さるべし

昭和十四年六月

主 催 東京昭和保姆養成所

責任者 土川五郎

東京市品川區大井原町五二〇八
 電話 大森 四二一〇番
 振替 東京 六九二一四番

時間割は開會の始めに差上げます
 自然物又は廢物利用の手技幾品にてもおありでしたら御郵送下さい送料はあとからお返しいたします

第拾壹回保育夏期講習會

主催 佛教保育協會

本會は創立以來本年を以て滿十年、毎年保育夏期講習會を開催してありまして早くも第十一回を迎へました。その間、朝鮮、滿洲、臺灣、樺太及内地各地方の關係者より多大の御援助を得まして毎回盛會裡に終るごことが出来ましたことを深く感謝してあります。

然かも本會講習はいつも「皆さんの講習會」といふ氣持を以て、理論よりも實際に重きを置き、經營者及保母さん方の眞實な御希望を參考として講師及科目を御依頼してあります。幸ひ各講師方も本會の微意を諒みせられ御多忙中を托げて御出講頂いてゐることを之又深く感謝してゐる次第であります。

本年は特に、觀察に堀七藏先生、漫畫に童畫の御指導におなじみの岡本一平先生、それから北支轉戰二星霜最近歸還せられた遊戯の賀來琢磨先生、婦人の修養に常盤大定博士等を煩はし、昨年の講習に多大の感銘を與へられた四家文子先生、卜部たみ先生、檜先生、關先生を加へて開催いたしたいと存じますから何卒御來會の程お待ち申しております。

一、期 日 昭和十四年七月二十七日より三十一日まで五日間(毎日午前八時より午後四時まで)

一、會 場 東京市中野區宮前町中野高等女學校

◇市電 新宿終點より西武電車又は青バスにて寶仙寺前下車寶仙寺境内にあり
 ◇省線 中野驛下車(新宿驛ならば前記西武電車又は青バスに乘換) 徒歩十五分寶仙寺方面行バスの便あり

一、講師及科目

一、時局下の幼児教育 (二時間) 東洋大學 教授 關 寛之先生

一、銃後と婦人 (二時間) 本會中野保母養成所 教授 文學博士 常 盤 大定先生

一、觀察の理論と實際 (四時間) 東京女子高等師範學校 教授 堀 本 七藏先生

一、漫畫の取扱ひ方と童畫の導き方 (四時間) 岡 本 一平先生

一、幼兒唱歌の教へ方導き方 (四時間) 四 家 文子先生

一、新手法教材 (四時間) 本會中野保母養成所 講師 卜 部 たみ先生

一、遊戯指導 (十三時間)

(一) 幼兒向一般遊戲 (七時間)

檜舞踊研究所長

檜 健 次 先生

(二) 幼兒遊戲の基本練習と讚佛歌を手材とせる一般遊戲 (六時間)

タヌタバツハ舞踊研究所長

賀 來 琢 磨 先生

一、其の他

(一) 講習員

金 參 圓

(定員超過の場合は期日前に締切するかも) 知れませんから豫め御諒知下さい

(二) 申込期日

七月二十五日迄

(三) 申込所

東京市浅草區松清町徳風幼稚園内 佛教保育協會夏期講習會事務所

(四) 宿泊

一泊二食付金壹圓五拾錢にて會場最寄の旅館をお世話いたします

(五) 鐵道割引

本講習に参加せらるゝ方に限り鐵道運賃割引の特典が與へられます

(六) 見學

御希望の方に限り八月一日に東京市内の社會事業施設、保育施設を御案内いたします

(七) 證書

講習終了者には修了證書を授與いたします

日 時	八時—九時	九時—十時	十時—十一時	十一時—十二時	十二時—一時	一時—二時	二時—三時	三時—四時
二十七日 木	開會式	常盤講師	常盤講師	四家講師	四家講師	四家講師	四家講師	四家講師
二十八日 金	岡本講師	岡本講師	岡本講師	岡本講師	賀來講師	賀來講師	賀來講師	賀來講師
二十九日 土	ト部講師	ト部講師	ト部講師	ト部講師	賀來講師	賀來講師	賀來講師	賀來講師
三十日 日	堀講師	堀講師	堀講師	堀講師	檜講師	檜講師	檜講師	檜講師
三十一日 月	檜講師	檜講師	檜講師	檜講師	關講師	關講師	關講師	閉會式

尙申込書用紙其の他御不明の點は左記へ御照會下さい

東京市浅草區松清町徳風幼稚園内

佛教保育協會第十一回夏期講習會事務所

電話浅草六〇一八番・振替口座東京七八六七番

保育夏期講習會

聖戰第三年の夏を迎へ、銃後を護る者の任務の益々重大となりました折柄、幼児保育に携はる者の時局に對する正しき認識と、確固たる信念と、優れた技術とが實に必要となつた事を痛感致します。本所はこゝに第二回保育講習會を開催し、非常時下幼児保育に精進せらるゝ保姆諸姉に、多少なりとも貢獻せんとするものであります。奮つて御参加あらん事を切望致します。

昭和十四年七月

主催 帝都教育會附屬教員保姆傳習所
後援 帝都教育會附屬教員保姆傳習所 保母科同窓會

……要項……

一、期 間 昭和十四年七月二十八日より三十一日迄四日間(毎日午前八時より午後四時まで)

一、會 場 東京府女子師範學校講堂(東京市小石川區竹早町八番地) 市電、市バス同心町下車

一、科目と講師

(一) 時局と保育

(二時間)

海軍省軍事普及部
海軍軍中佐

松島慶三先生

(二) 保育者の歩むべき道 (二時間)

東京府女子師範學校教諭
帝都教育會附屬教員保姆傳習所副主幹

梯英雄先生

(二) 智能検査に就いて (二時間)

東京府女子師範學校教諭
帝都教育會附屬教員保姆傳習所講師

中野佐三先生

(二) 幼児に適した童話の選び方と作り方 (二時間)

東京府女子師範學校教諭
帝都教育會附屬教員保姆傳習所講師

井部正先生

(一) 略画の描き方 (二時間)

東京府青山師範學校教諭

赤津隆助先生

(二) 應急手當法 (二時間)

愛應病院小兒科
醫學博士

中鉢不二郎先生

(二) 音樂

一 幼兒唱歌の作曲に就いて (二時間)

東京府女子師範學校教諭
帝都教育會附屬教員保姆傳習所講師

大和田愛羅先生

二 童謠唱歌の歌ひ方 (三時間)

東京女子高等師範學校教授

平井美奈子先生

(二) 遊戯

一 遊戯に就いて (三時間)

樺茂都流家元

樺茂都陸平先生

二 童謠舞踊 (七時間)

島田兒童舞踊研究所長
帝都教育會附屬教員保姆傳習所講師

島田豐先生

(二) 幼兒に喜ばれる新特技 (三時間)

修養園野方學院主任

松石治子先生

(前記の外保育参考映畫の映寫があります)

一、講習料 金貳圓五拾錢也(出席の際御納め下さい)

一、資格 幼稚園保姆並に幼稚園關係者

一、定員 參百名

一、申込所 東京市小石川區表町八十八番地 帝都教育會附屬教員保姆傳習所

保育夏期講習會事務所(電話小石川二三七番)

一、申込期日 七月二十五日迄(但し定員超過の場合は期日
前(前に締切ることがあります)

一、宿泊 一泊二食付金壹圓五拾錢にて保姆傳習所寄宿舎を御世話致します。御希望の方は早目に前以て御申込下さい。

一、講習證 講習修了の方に授與致します。

保育問題夏季講習會

期日 七月二十七日より八月一日まで (六日間) 夕刻午後六時半より八時半まで

科目と講師

第一日 保母は何を爲すべきか

保育問題研究會々長 城戸幡太郎先生
法政大學教授

いふまでもなく、幼児を保育することこそが保母の務めであるが、心構へによつて保育の實績は各様である。向上心に富む眞面目な保母は、何を目標に日常の保育に當つたらよいのか。又、新時代の保育方法の基礎原理は如何にあるべきか。科學的な保育學の立場から熱情こめて語られる先生のお話には、何人も啓發され勇氣づけられ視野の展く想ひあることと信ずる。

保育問題座談會

懇親を兼ねて座談會を開きます。日頃お困りの問題を、どんなことでも結構ですから、話題として御用意下さい。

第二日 幼児の生活指導

恩賜財團愛育會 愛育研究所教養部 山下俊郎先生

幼児期の基本的習慣の養成こそ幼児の正しい生活指導です。幼児期の清潔、食事、排泄、着衣、睡眠の基本的習慣は何歳頃から養はれるか。幼稚園託兒所でこれらの生活訓練を爲すのにはどんな目標を立てるべきか。多年の實際的研究に基づく科學的基準が示されます。

幼児体操 (實習)

厚生省体育館 大崎サチエ先生

幼稚園託兒所における遊戯は、今日のまゝでよいのであらうか。その他に何故、幼児のための体操が必要であるのかを、海外の經驗並に現在体育館において實際に行つてゐる實績に立脚して説いて戴きます。皆さんも一緒に上衣を脱いで實習して下さい。

第三日 健康保育

愛育隣保館々長 廣瀨興先生
醫學博士

疾病を早期に發見してこれを治療すること、並に疾病にかゝらず健康を保つやうに生活訓練することが、健康保育の目的です。愛育隣保館長として健康保育の實際的指導に當つて居られる先生に、はつきりした目標と方法を示して戴きませう。

幼稚園に於ける應急手當 (實習)

廣瀨興先生

突然の傷病に對する應急處置は、醫療施設のない場合は尙更のこと、心ある保母の心得ておかねばならぬことです。打つたり切つたりした時の手當、特に傳染する疾病の發生に對する處置法等につき、醫學的な常識を養つておきませう。

第四日

保育案と保育日誌

大和郷幼稚園 坂内ミツ先生

保育案は保育の計畫、保育日誌はその記録です。計畫がなくても記録がなくても、よい保育は出来ない。斯道の權威者である先生に豊富な経験を語つて戴き、研究的態度で保育に當る保母の心構へに普及して戴きます。皆さんも保育案と保育日誌を持參して下さい。

人形芝居の製作(實習)

保育問題研究会 松葉重庸先生

この非常時局にふきはしく、古新聞、古ハガキ、古ざね、古毛糸等の廢品を材料に、幼児の生活を最も楽しく彩る人形芝居を製作しよう。作り方は從來の型を破り、單時間に簡単に出来ます。

第五日

保母と生活

婦人セツルメント 奥むめお先生

保母も亦一個の職業婦人です。生活をもつ社會人です。日頃は兎角、保育の仕事に追はれて自己の生活を顧みない暇がありませんが、多年、職業婦人の生活戦線の指導者として努力して來られた先生に、社會人としての保母を語つて戴き、お互の向上の糧に致します。

人形芝居の演出(實習)——續講——

簡易に出来る人形を活用するにはどれだけの心得があればよいか。脚本、演出等について具体的に指導し、尙實演も致します。

第六日

放送會館見學と「幼児の時間」懇談會

新裝成れる放送會館を見學し、「幼児の時間」關係の方々と共に、この新しい保育要具たるラヂオについて語り合ひます。

會場

東京市小石川區駕籠町二〇六

大和郷幼稚園

(省線・巢鴨驛下車約五分 市電・西九町又は理研前下車約三分)

定員 二百名

會費 金壹圓五拾錢也 (保育問題研究會員は一圓)

申込所 東京市麴町區法政大學兒童研究所内

保育問題研究會

主催 保育問題研究會

備考

- (一) 申込と同時に會費納入のこと、引換に會員證を送ります。申込期日七月二十五日まで
- (二) 申込の折、お忘れなく住所(東京の宿所決定の方は併記)、勤務先・姓名を書いて下さい。尙保育問題研究會員はその旨附記願ひます。
- (三) 講義はすべて短時間で能率の上るやうにプリントを活用します。(無料)
- (四) 人形芝居製作實習材料は各自持參のこと。人形一箇分材料(新聞紙一枚、古ハガキ一枚、改良半紙二枚、小布(80x80cm)大一枚、古毛糸(人形の頭髮用)少々、他に鋏、糸、針。
- (五) 詳細は本研究会宛問合せられ度し。尙會報「保育問題研究」(一部二十錢)七月號を御參照下さい。

東京市麴町區法政大學兒童研究所内
電話九段四六一番、振替口座東京六七七五五番

全國幼稚園關係者大會豫告

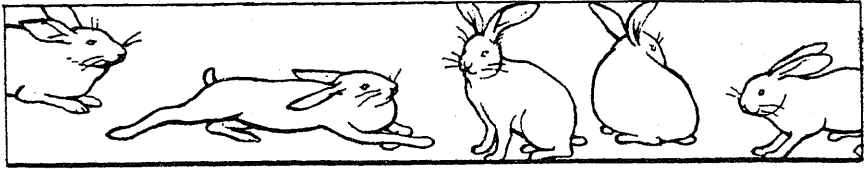
本年秋當仙臺市に開催の全國幼稚園關係者大會の期日は、十月七日（土曜日）及び八日（日曜日）の兩日に取り決めましたので、豫めお含み置き願ひます。詳細は追て御案内申上げますが、全國各位奮つて御參會下さいますやう、今日から願ひいたします。

尚ほ右事務は本會事務所取扱つて居ります。

昭和十四年七月

仙臺市役所内

仙臺市保育會



號七第 育教の兒幼 卷九十三第

——(次 目)——

扉

國策遂行の支部機關としての幼稚園及び學校……………倉橋惣三(一)

夏の育兒漫談……………竹内薫兵(六)

創設一年後の所感……………榊井辰次郎(九)

關西保育界に於ける童話……………足立勤(二)

幼兒の「家の畫」の研究……………(一四)

殘花聚園(七)……………石川謙(三)

精神缺陷者の爲めの幼稚園の必要性について

保育關係諸氏に懇ふ……………三木安正(二四)

白鳥の童女……………石井庄司(元)

水ミ子供……………山田仲子(三)

或日の觀察……………清水光子(五)

子供との問答……………留岡よし子(七)

關西保育會提出遊戯……………(四)

ハイディ——ヨハンナ・スピリ原作……………津田芳雄譯(四)

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編 (再版)

觀察の實際

菊判一三〇頁
定價金壹圓
送料東京金六錢
市内金九錢
料其他金九錢

○觀察の實際については何か参考したいといふ御希望は皆様から常に伺ふ所、本書はその爲に最も適切親切なる書である。

日本幼稚園協會編

幼稚園談話集 (四版)

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

系統的保育案の實際 (四版)

幼兒の教育 (月刊)

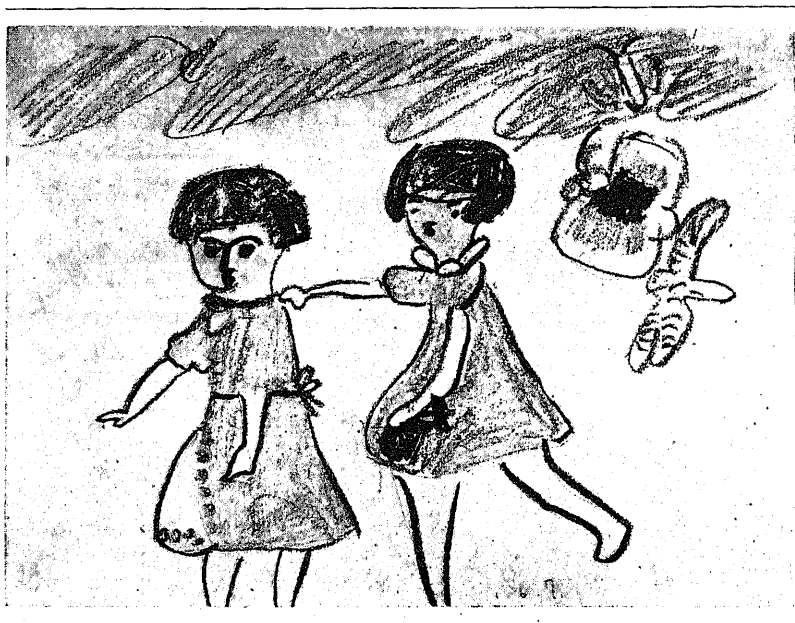
菊版三五〇頁
送料市内金壹圓五拾錢
地方北海道・臺灣・樺太・朝鮮・滿洲金拾五錢

定價金壹圓
送料金六錢

一ヶ月 金參拾五錢 送料金一錢
一ヶ年 金四圓貳拾錢 送料共

幼 児 の 教 育

昭 和 十 四 年 七 月



蝶々が追つかけて来た。たゞ飛んでゐるのではない。わたしの持つてゐる花に來るのだ。蜻蛉までも來る。そんなに、みんなで、わたしの花がほしいのかしら。

さう思ふと、ひとりだまつてゐられぬ。手をのばして、前に行くお友達をつかまへて、その急を告げる。今まで全く別のことを想つてゐたお友達は、だしぬけのことに、びつくりする。

子どもの世界には、それ／＼のわけがある。

(倉橋生)

國策遂行の支部機關としての幼稚園及び學校

倉 橋 惣 三

幼稚園の家庭教育を補ふ云ふ任務について前號でも考へた。これは幼稚園令に示して居る處であつて、その意味は今更説明するまでもないが、この言葉の正面の解釋としてはどこまでも家庭が主體で、幼稚園はこれを外から補ふ云ふ關係に置かれる。幼稚園は一人々の幼兒を大切にするが、その家庭の如く切實、眞實なるものではありにくいであらうし、又若しさうなつたことすれば、その子の爲の家庭云ふものゝ立場が逆倒されてくることになる。即ち子供の爲にどこまでも、家を中心として幼稚園はその補助たるの位置にあること考へるが正しいのであらう。少くも平時に於てかう云ふ考へで一切が行はれてゐること言つていゝであらう。

然し、補助機關であると言ひながら、何もただはたからお手傳する云ふだけの態度に止まるべきでもない。根本に於て補助機關であるとしても、教育的には幼稚園の方が専門家であることすれば、むしろこつちから家庭へ働きかけて、子供の教育に關する限り家庭をこつちの方へ協力せしめること云ふこともあり得ることであり、あつていゝことである。前號に述べたところは全體この點に關してはあつた。ところが、更に一步進んで、幼稚園が中心となつて家庭を導き、家庭をその行くべき正しき方向にひつぱつてゆくこと云ふことさへも必要なことではないではあるまい。わけても今日の時局の如きに於て常なる生活態度、教育方針が、國の意志に於て方向を向けかへられ、或は、平時以上の進み方を必要とする云ふ場合に於て特にさうである。私はこの點に於て、學校なり幼稚園なりは國策遂行の一支局的中心たるべきものだ云つて見た

い。例へば、國民精神總動員の仕事に於て、これを國民に徹底せしむるに種々の方法がある。それがため種々の團體が各々受持つてその宣傳乃至強制を行はうとするのも一つの方法である。それが漠然たる大衆に向つて行はれる動員よりも有效であるに常に考へて居る。然るに學校なり幼稚園なりは、豫ねてその受持區劃をもつて居るに云つてよい。大きい學校が千餘の兒童をもつてゐる時、學校はその千餘の家庭に對する中心支部となれるのである。幼稚園はこれに比べてその受持の數が少いのを普通にするが、それにしても、百に近い數を持つのを普通としてよからう。のみならずその數に於ては少いが、それだけに關係は密接であり、支局中心としての影響の及ぼし方に於て却つて優れて居るに云ひ得るにころもある。即ちさうした學校なり幼稚園なりが、國策宣傳乃至強制の支局たり支部たる任務を進んで擔ふべき覺悟を持つべきことが、有效にして従つて至當なることになるのである。殊に、その國策の實現は、一として兒童幼兒に關係なきものはない。或は奉公の生活實踐と言ひ、或は物資節約の態度と言ひ、今日に於て重要な國民生活の方向となつて居るもの一として幼兒兒童を除外するものはない。敢へて妙な言ひ方をして見るにすれば、生活の複雑なる習慣の中にある大人としては、自分達の生活をかうした方向に嚴密に合致せしむる時に容易でないことを感ずるものにして、子供達に對しては、その方向に向かはしめんとする意志を持たないものはないのである。これを言ひ換へれば、子供を中心とする限り無條件なる實踐の方向に誰もが今直ぐに合致するのである。その點に於てその子供を通じての支局中心たる學校幼稚園の有效なる働らきが、期待せられ得るわけである。

○

幼稚園なり學校なりは、國策實行の支部機關として直接に國の方針に従つてその子供達を教育する。子供達はこの支部機關の國家から直接の力の力強さに於て生活をその方向に指導せられず居ない。唯その子供達が、時間的にも、生活の實質に於ても、學校幼稚園以上の影響を受けずに居ないところの家庭が、果してその國策に眞に充分に一致せる生活態度をもつて居るか否うかは重大なる問題である。平時の道德的、又社會的なる生活態度に於ても、學校幼稚園と同一の考へ方と實踐とを家庭が持つてくれない限り、その子の教育が眞に徹底しないことは常に憂へられるところである。それが況んや

時局に基く特別な方針である場合、家庭及び幼稚園は、それが持つだけの力に於てそれを子供に徹底させようとするが、家庭の協力なくしてこれを實行することは極めて容易でないことしなければならぬ。況んや、家庭が反對の方向にその生活の實行を行つてゐる場合、子供はその學校に於て與へられ、家庭に於て奪はれ、又學校に於て濃厚にせられ、家庭に於て薄められ、何等の結果を見ずに終ることなしでないのである。そこで幼稚園學校は家庭に向つて單に自發的な協力を求めること云ふこと以上、強ひても家庭を同一方向に激勵せずには居られなくなる。この意味に於て幼稚園學校は、強力なる主張者たるのみならず、強力なる督促、又強制促進者として、家庭に立ち向うの任務を自覺しなければならぬ。

この場合、その間にさしはさむところの協力の對象はもてより子供である。家庭そのものを家庭それ自身としてさうあらしめやうかきすることは、或は幼稚園學校の當然の任務ではないかも知れない。殊にその強制力もないであらうし、況んや統制権もないわけである。併しながら、子供に向つてはその大なる任務の自覺と力を保持して居ることは云へやう。家庭が、學校幼稚園のかうした要求に合致し來たりくれることなしに幼稚園學校は子供への國策の教育をなし得ないこと云ふのである。又家庭へ向つて云ふのである。而してこれは、恐らく最も強き強制力であり統制権であることになるのであらう。

○ 實際の問題として幼稚園學校は、その子供の家庭の教育方針に對し、充分の尊敬を拂ふ心構を必要とするものである。殊に文化の進みたる社會に於てその子供の教育に關し家庭は充分に尊敬せらるべき權利を持つてゐることも云へる。この意味に於て、理解ある學校幼稚園は家庭に對して屢々遠慮深き態度をさへもさるることが稀でない。これはこの原理に就て正しさもあることであり、わけても美しさのあることでもある。併しその正しさが、その美しさ、時としては家庭に對する學校幼稚園の主張の弱さをも伴はないに限りない。わけても、幼稚園に於てその觀が少しも見ないのである。或場合に於ては相當に遠慮深さを通りこしたるが如き態度をもつて、家庭に對する風もないことは言へない。その習性は、今日の如

き時局に於て、苟も國策遂行支部機關として立たなければならぬ時には、その力の弱めらるゝことを往々にして遺憾とする。こゝに國策遂行支部機關と云ふ意味はもとより、官立の施設、公立の施設に限らるべきものでない。個人經營の學校幼稚園の場合に於ても、その社會的存在の機能は、實に何れも同じく國策遂行の支部中心機關たる位置に置かれて居るのである。今日に於てかうした自覺から學校幼稚園のさるべき態度にいろいろ大事な點があるを信ずる。

吾々は、かく言ふことに於て幼稚園學校がその平生的なる當然の任務を捨て、それらの宣傳に當るを云ふ如きことを意味して居るものではない。近時往々にして學校幼稚園の宣傳機關の利用を云ふやうのことが輕々しく口にせられたりするが、吾々のこゝに考へてゐるのはこれは決して同一ではない。吾々の言はうとする事はごまでも教育作用としての考へ方である。その子への教育効果の必須性を家庭に要求するのである。その家庭への單なる宣傳徹底の爲ではない。さうすることなしに子供への、實質的徹底が出来ないから家庭へ要求するのである。勿論かうした結果は家庭そのものへ徹底することになるのであり、結果に於て異つたものになるのではないかも知れないが、その何が故に家庭に強要し、何が故に家庭に統制權をさへも振はうとする動機はごまでも異なるのである。それが、ごまでも教育的なのである。國策の遂行は國策の爲に必要なものであることは言をまたない。併し國策に子供を添はしむることは大きな教育である。國策それ自身の内容に於て大事であると共に、國策に従ふを云ふそのことに於て教育意義の大なるものがあるのである。その大なる教育意義のまざり氣なき、たるみのなき實現の爲に、學校幼稚園はその教育權に於て家庭に強制し又家庭を統制せんとするのである。而してこれを行ひ、教育的意味に於てその誤りなき効果を擧ぐる爲には、教育者自身の國策に對する信念と共に、子供を國策に従はしめんとする教育責任感の忠實にして強烈なるものが先づなければならぬ。教育者は、一人として絶対の眞、眞の完全を云つた理想への忠實を強烈性を持つてゐるものはない。これによつてその日々の教育を行うてゆくのであり、また家庭をも之に協力せしめやうとするのである。しかもかうした一般的なる態度の上に、時局の必須とするこゝろの國策への忠實なる態度を、これを兒童幼児の上に徹底させずにおかないを云ふ強烈性を缺くこと

を許されないのである。しかも、その前者の態度に於ては、各家庭が教育者の意圖に十全なる合致を見ないとしても、さう甚だしき強制を行ふことは、結果に於てむづかしいと共に、態度に於てもしかねるところもあるのである。こゝに、子供に強く家庭にはそれ程強くない教育者の平生の態度が出て來るのであらう。これに對して後者の場合に於ては、子供に強きこと云ふことは、家庭に強きことなくして意味をなさないのであり、後者の平生の態度から一步進み出でたる態度をも要求されずに居られなくなるのである。後者よ國策遂行支部中心機關の任務を引き受くるものとして、平生とは違つた強き態度に立たなければならぬことを多いのを忘れてはならぬ。

文部省主催の保育講習が、本年は開かれませんが、大正五年その第一回が開かれた以來引つゞき毎年開催せられ來つたものです。我國保育界に多大の實質的貢獻を與へると共に、保育界に權威を加ふる存在であるのです。それが、本年開かれぬことは遺憾の至りです。來年は是非開催せられることを信じて待つてゐます。

夏の育兒漫談

竹 内 薫 兵

食物のこと

夏は食欲不振になることは一般にいられることであるが、幼児は必ずしもさうでない。涼しくさへしてやれば、驚くほど喰べるものである。

夏、母親として、食物についての一番の務めは、子供の偏食を直してやることである。偏食の子供は随分多いが、何故、夏休に直してやるべしといふかご申すに、夏は、同胞達(ありこすれば)が比較的同じ家庭に居るし、母親も、同様な家に在り勝ちである。いはゞ他の季節よりも一家が家庭的になり易いものである。この事あるが故に偏食の矯正が出来やうといふのである。

要するに偏食は一種の神経病である。たゞひ親の偏食をその通り子供が偏食であるにしても神経病たるに相違はない。親が罹らせた神経病であるともいへる。之を矯正するには教育による外はないとされて居る、それには、よいお手本を示し、そのお手本通りにさせる方法が最もよいのである。それであるから、同胞達に食事する機會の多い夏は、母親も其氣になつて、『ホラ、お兄さま達も、あの通り、何でも喰べるでせう。お父様も、お母様も、みんな一緒にあの通り喰べませうね』といふ風に仕込んでいくのである。それに夏は最もよい時機なのである。若し、しかし、母も父も、同胞も皆偏食であり、『嫌ひなものは仕方ない』といふ流義であるならば、さういふ人達には偏食の害なご判らう筈はなく、又従つて、偏食矯正の熱意なごありやう筈はない、さういふ家庭の子供の偏食を直すには、もう親や同胞を相手にせず、その子供のよ

きお友達を頼りにする外はない。何でもよく喰べるお友達と一緒に會食させる機會をなるべく多く作つてやり、その友達の眞似をするやうに仕向けるのである。友達は一人だけでなく、なるべく、取りかへ引きかへ、いろ／＼な友達を會食させ、その友達の誰もが、偏食でないところをよく／＼感得させるのである。

二、住居のこと

風通しのよい住居がよいといふことは申までもないが、それは夏の暑いうちだけの事だと思ふ人が多くて困るのであります。風通しは秋になつても、それから寒中になつても、直接に風が部屋へ出入しなくては子供のためによくないのであります。それは、しかし、寒くなつてから急にこんな事云つたところで到底實行は出来ないわけでありますから、暑い夏からこの習慣を附けるのであります、冬になつてからの部屋は夏同様に吹き晒してはいけません。これは申すまでもありません。戸外の空氣が直接室内に出入する點が目的ですから、大きく窓を開ける必要はありません。しかし、夏は、すつと廣く窓を開けた方がよろしいのであります。近頃、肺病の治療に外氣小屋といふものを拵らへて、唯一人その小屋へねかす、勿論晝夜そこへねかして置く。窓は開け放題、窓から入る外氣は直ぐ顔へあたるといふ工合に、ほんまに小さい部屋です。總計一坪半か二坪位の小屋です。そこへねかして置くに肺病にも非常に効果があるといふことが確認され、もう試験的の時代を過ぎて、實行期にまで入つて居るのであります。

これは肺病の治療についての外氣の必要な事を申したに過ぎませんが、丸で無病の子供にも外氣になるべく觸れさせて生活させる事は必要缺くべからざる事です。そんな譯ですから夏のうちから風通しのよい部屋でねかすことを心懸けていたゞきたいのです。若し眞に一層積極的に實行しようとするならば、子供のために外氣小屋を建造してやり(一軒三十圓か五十圓で出来ませう)、その中でねかす癖をつけておやりになる事よいのであります。子供の怯懦心を去るといふ教育的効果も同時に護られやうといふものです。

三、歩行をすゝめる

都會には街上に危険が多いので、充分に歩かせる事が躊躇されますが、なるべくもつゝ歩かせる癖をつけるのがよいのであります。夏に山や海岸へいつて、身體の鍛錬を行つて比較的丈夫になるのは、その次の一年間を健康に暮らし、來年の夏また鍛錬を行ふまでの健康の貯蓄になるなご思ふのは誤りで、夏の健康法は、秋や冬の養生で一舉にして壞滅して終ひます。これ故、夏に行つた健康法を秋も冬もつゞいて實行するやうにしたいものであります。この意味で一番實行しやすい方法は歩行です。しかも、風の吹く時でも何でも歩かせることです。實は、子供は、こんなに取り立てゝ歩け歩けといはなくとも、放つて置けば充分に歩き廻るものですが、なるべく外へ出させないやうにしたがる傾向が都會の母親達の間に著しくあるために、子供よりはむしろ母親方への注文としてかく申上げるのです。子供はもつゝ歩かせてやつて下さい。

四、甘やかし過ぎないこと

躰のことは、その方の先生方のお話に任せますが、身體の健康にも躰が大關係あり、しかも、近頃躰のよくない結果、子供の病氣に際しての取扱ひにも至難なるやうな事實がありますので申すのですが、さうも一概に甘やかし過ぎて困るご思ひます。病氣なるご、起臥飽食共に醫師の注文通りにしなければ、到底治るわけにいかないものであります。平素からの躰のよくない子供は、さうしても、この治病の規格に沿ひません、その結果のよくないご知るべしであります。子供を放置することが教育上よいごいふ説もあるかも知れませんが、一方ではもつゝ嚴然ご、守るべきごころは守らせていたゞきたいご思ひます。善いごはイエスで、悪い事はノー。ごするご、子供の躰の場合にはイエスカノー。この二つを判然ご區別して、子供のためによくない事であれば、さんなに子供が泣いても飽くまでノーで押し通すだけの毅然たる母親では非ごもあつて欲しいのであります。

夏は母親も同胞ご一緒になつて、幼稚園年齢の子供の躰に専念し得るよい機會であるご思はれます。

創設一年後の所感

東京市永田町幼稚園長

榊 井 辰 次 郎

當幼稚園は昭和十三年四月二日に創設しました、たゞ一組で一ヶ年保育です。小學校校舎の一部を利用して居りますので、小學校に併置の形であります。本年三月第一回の保育終了兒を出しました、この通り簡単な幼稚園で、しかも私が園の經營は初めてですから、以下申し述べます感想は至つて平凡であります。若しもこりえが有るましたら園兒の様な幼稚ささ、笑ふに笑へぬ正直さが表はれて居るかも知れませぬ、之も唯先輩である皆様の御指導を得たい許りに、倉橋先生の御勧めのまゝに、書き記すことにした次第であります。

幼稚園を置いてよかつたこと

◆之れ迄我が小學校一年生の入學當初は、まるで園兒入園の様な扱ひをした事が多かつた、上靴が脱げたきて履かせてやる、一寸泣いたからきて手を引いてやる、何ちやんお手てつないで、あんよを上げてなごこ、寵愛過ぎる點が、又しても見受けた、家庭でも同じで、下がないと兎角赤ん坊扱ひになり易い、之は人情であるが、幼稚園が

出来てからは、一年生の先生も兒童も一段と變つて來たのが認められる、小學帽を冠つてランドセルをかけた昨日の園兒が妙に兄氣取りで敬禮をする、姉構へで園兒をかばつて居る、先生も以前はすつこ扱ひ方に割引がついて甘さが統制されて來た、これは幼稚園の出來たせいだご喜んでゐる。

◆凡そ園兒は必ず小學校に進むのですから、何時かは無しに小學校の状態を見覺える必要がある、たまには悪い風も覺えませうが、大體必要な節々を自然に會得して、知らず識らずに、校風にも染まるご信じます、之れは園兒に取つて大切な獲もので、日課でない日課である門前の小僧に習はぬ經を、正しく讀ませねばならない點が含まれて居る、幼稚園を小學校に附設してよかつたご、思つて居ます。

◆中學校あたりでも、新一年生が入學するご珍らしいご云ふより、幼い者が殖えたご云ふ氣持で、校内が何んごなく和やかになり、教師の間にも上級生の間にも、一種の

潤ひが湧く。高等小學校でも男子校女子校と區別するよりは合同收容の方が教育上自然で和やかである、一家でも子供の無い家庭は慥かに物足りなさがある、私は我小學校に幼稚園が出来て可愛い園児の殖えたことが學校全體に著しく家庭味と相愛味が増して、急ぐ便所をゆづつたり、幼弱扶助の場面を度々認めて喜んでをります。

小學校でも良訓導となるにはなかく、むづかしいことでもあります、幼児保育上にも優良保姆となるのも、亦別様の苦心と修養が必要で、決して容易な業ではないと思ひますが、私が今保姆先生に希ふ所の一、二は、凡そ次の様なものであります。

あつて欲しいこと

◆第一に健康で、まめに働いて勞を厭はぬ素直な心身の持主であつて欲しいことです。

◆ごんなにまめに親切に世話をする人でも、無表情では、落第でせう、働く「マネキン」では凡そ意味が無いでせう。「あら可哀想」云ふ同情、「しつかりがまんして」云いふ堅忍不拔、「よく出来ました」云いふ満足、「おもしろいね」云いふ快感、「靜かにお行儀よく」云いふ壯重敬虔、等わざらしくはない自然な心からなる表情が場合々に應じて發露して欲しいものです、薰化感化徳化で行く保育事業には、是非ともこゝに氣をつけて欲しいと存じます。

◆さりきて餘り氣が過ぎ過ぎて轉々世話の仕過ぎるの
は、又褒めた話してではない、之を喜ぶのは、判らぬ母親
丈けでせう、火のつく様に泣く兒を、ぢつと見て居る場
合も有る筈である、撫でたり抱いたりするのも、なかなか
か手加減もので、豊臣秀吉や徳川家康の様な英雄の氣性
を、一人で使ひ別ける分別が有つて欲しい。鳴かぬなら
鳴かせて見せう時鳥。鳴かぬなら鳴く迄待たう時鳥。

◆園児はこわい程本氣に眞面目になるもので、うつかり冗
談も言へませぬ。一本の棒切がお馬になつたり、鐵砲に
なつたり、刀になつたりします、それが眞剣で心から、
さう信じて扱つて居ます、かりにもしお猿の役が當つた
とすると、恥かしくなんぞは微塵もない、可愛や全力を
込めて、お猿になりきるでは有りませんか。保育の任に
當る方々は、邪念なしに眞に子供になつて、彼等と生活
を相共に子供になりきる覺悟が有つて欲しいものです。

私には幼稚園が春の花園と思はれてなりません、幼稚園
に何時行つて見ても、心自ら晴れて、少しも邪氣が起りま
せん、さの子供を見ても、無邪氣で純眞無垢で、可愛さが
溢れて居る。肥つたのも可愛い、細いのも可愛い、丸るい
のも可愛い、角のも可愛い、するこゝ爲すこゝ皆可可愛い。
自分が年を取つた故で、かくも可愛いのかとも考へる、な

關西保育界に於ける童話

大阪中央放送局教養部 足立勤

繪を描くことに興味があり趣味を持つてゐる先生達はよく繪を描き、童話をする事に興味のある先生達は童話をするが、興味のない先生は童話なんかしやうとも思はねば又話してきかさねばならぬといふ任務をも感じてゐないで、たゞ特別に話上手な専門家が時々童話をきかせてやれば結構なこゝであるといふ位の考へしか持つてゐなかつたのが昔の幼稚園の先生であつた。昔もいつても十年位前までは、幼稚園の先生方は童話といふものに對して此の程度にししか考へてゐなかつたのではないかと思ふ。それが近年、童話を語るこゝは、保姆の任務の一つであるといふ考へが盛んになり、童話への關心が非常に強くなつたのは嬉しい事である。

關西に於ける最も權威あり、且つ、既に全國的な存在である、大阪童話教育研究會の幼児童話部が主催して『事變の幼児童話』といふ座談會を昨年春頃開催したところ、大阪市幼稚園の主任方を始め保姆さん達が、百人近く出席され、熱心に研究討議せられた。此の席で論じられた根本問題は、

幼児に對して、事變に關する戰爭談を與へた方がいゝか、與へない方がいゝか、云ふ事であつた。せめて幼児の世界だけは、平和な美しい夢多き時代として過ごさせてやりたい。我々はなるべく戰爭の話よりも美しくやさしい話を選んで與へようではないかといふ意見の人も、男兒は戰爭の話になるを眼をかがやかせ一生懸命になつてきくからさしして話してやりたいといふ意見の人もあり、大いに討論されたが兩方に夫々の主張があつて、仲々結論に到らなかつた。司會者の求めに應じて私は「戰爭の話をするしないは一に話者の心構へに依つてきめるべきである。幼児をして強い刺戟から遠ざけ美しい世界に遊ばせてやりたいのは親心であるが、實際問題として幼児達が全然事變色に影響されないので濟むだらうか、又かうした時こそ幼い魂へ幼児に相應しい感激を與へてやるこゝも意義のある事に思はれる、要は、諸君が時代を認識し、はつきりした指導精神を以て話すなら大いに話してやるべしである。何等の指導精神を持たず表面的な愛國心で觀賞的な話し方をするこゝした

ら害こそあれ益は無い。徒らに幼児を興奮される様な事は
さけない。さいつた様な意見を述べた様に記憶してゐる。

それはさもあれかうした研究会に百人近くの人が出席し長
時間に亘つて熱心に眞剣に討議された事は、保姆さん達が
いかに「子供を語る」事に關心を持つてゐるか分る。確か
に童話に對する關心は深くなつた。が然し、童話を語る實
際狀況はさうか云ふも、まだくお遊戯なきに比べるさ
ほんのおまけかお添物に過ぎない觀がある。これには種々
の理由もあるが、話材の缺乏、話術の研究不足の二つが最
も大きな原因であらう。童話に對する熱情は持つてゐるが、
その熱情を充分に満してくれる、よき話材が少いので不自
由を感じてゐるさいふわけである。手つさり早くすぐ口
かけられるやうな話材が見つけ難い。たさへ自分が讀ん
で、良い話だと思ふものがやつさみつかつたと思つて苦心
して子供達に話しても、子供達には興味なく傾聴してくれ
なかつたり、幼兒童話と銘を打つて出されてゐるものが手
に入つても、全く幼兒の世界から遠く作家が自己の藝術的
意慾を満してゐるものに過ぎないものであつたり、やゝ面
白さうなものがあつたさしてもそれはあまりにも陳腐な内
容であつたさ良心的に考へるさ幼兒達に話してやるやうな
氣にはなれないものであつたりして仲々いゝ話が手に入ら
ないさいふわけである。そこで、さうしても、保姆自身が、

よき童話を創作するさいふ事が必要になつてくるのであ
る。數年前に大阪市保育會から保姆さん達の童話を蒐録し
た大きな單行本が發行された。その熱意その努力は大いに
尊敬するが、その内容は残念乍ら推賞したいものが少い、
あまりにも、眞實性(現實的に非らず)に缺けてゐるものが
多い。もう一度あつたものが研究され發行されるやう切
望に耐へない。大阪童話教育研究會員の有志が、この點に
著眼して數年前から幼稚園童話のために貢獻せんご創作に
努力してゐるが、その中には現在、保姆の職にある人達が
多く揃つてゐる事は頼もしくもあり嬉しい事である。

次に話術であるが、これはまだ前途遼遠である。前にも
述べたやうに、保姆である以上、誰でも當然童話を語らねば
ならぬものであるさいふ認識は一般に持たれて來たやうで
あるけれども、それでもまた多くの場合、保育室の隅でなる
べく人目に立たぬやうに小さくなつて話してやるさいふや
うな引つ込み思案な先生方が多いのではないかと思ふ。保
育室の一隅や運動場の木の蔭で靜かに語りきかせるさいふ
事はほゝゑましくもあり望ましいことであるし、幼稚園で
の童話は決して公開的に大衆的にやる必要はない。折にふ
れ、事にふれて傍に居る園児達と語るのが幼稚園童話でな
くてはならない。然し引つ込み思案は感心しない。いまは
亡き前大阪市教育局長生田五郎氏童話に就て語り合つた

事があつたが、その時、生田氏は『今度、市の主任保姆の論文に「幼稚園の談話」をいふ問題を出した。初め「幼稚園の童話」をいふ題だつたのを「談話」に訂正したよ。どうだらう。幼稚園では童話なんか必要ないだらう』をいふ事を云はれた。私はそれに對して『幼稚園の童話の形式の方がいい、幼稚園に於ける談話を我々は幼稚園童話と銘打つのである』と云つたやうな事を答へて生田氏の共鳴を得た事があつた。私は常に此の意見をもつて童話運動に微力を捧げてゐるものであるが關西の各都市に於ける童話研究團體の友人達が、私と同じ見解のものを研究努力されたので、その影響もあつてか、心ある幼稚園では各々の保育室で小ぢんまりとした静かな童話の時間が持たれつゝあるやうである。

このやうに幼稚園童話が、所謂公開の大家童話なごのやうに派手に芝居じみた話し方なごを真似してはならないし、その必要もないのであるが、併し、話術の考慮が全然不要であるをいふわけではない。話材を見て、一體ごの點に最も力を入れて語らうか、又この話の重點は一體ごにこの點にあるのか、又この點をいかに語れば幼児に最も理解感銘し易いかをいふやうな研究こそ、眞の話術研究であつて、この種の研究はお遊戯の研究と同等になさねばならぬと思ふのに、それは全く顧みられてゐないといつていい位である。僅かに各都市の童話研究團體に参加してゐる保姆さん達のみが、この種の研究も必要だと思つてゐる位であ

らう。併し右のやうなごは關西に限らず大體に於て全国的に共通する情勢ではないかと思へられるが、ごに一つ特筆すべきごがある。それは大阪市の浪速區三天王寺區の兩區保育會が共同で『幼稚園談話細目』をいふ研究を公にしてゐるごである。この研究に於ては話材から内容から右に述べたやうな意味の話術の研究から、少くも幼稚園の談話に關するあらゆる知識がごに盛りられてゐるといつて過言ではなからうと思ふ程よくひろくまごめあげられてゐる。併し、これ程の綿密な研究が出来るにもかゝらず、この研究發表はごこまでも題の如く「細目」であつて、一つの著述でないごは、或る意味で惜しいものである。

この細目を根幹として更に説明を加へたごころの著述であるならば、され程幼児教育界に貢獻するごころ多からうかと思ふ。いづれにしてもこれなごは、關西保育界の誇り得べき一つの研究であり、幼児童話が行はれつゝある情勢如何をいふ間に答へる大きな役割をなしてゐるものと思つて特筆したわけである。

尙この外、主任保姆始め大部分の保姆が大阪童話教育研究會に加つて研究し、全保姆交代で自分の幼稚園児に童話をきかせ批判し合つてゐる敬服すべき幼稚園があり、ラヂオの世界にも、保姆さん達が、ぐんぐん進出し始めてゐるが、此の二つの實際に就ては他日機會があつたら題を改めて書く事にする。

(終)

幼児の「家の畫」の研究

神戸市保育會

本稿は去る五月廿八日京都市に於て開催せられたる第四十四回關西聯合保育大會にてなされたる研究發表である。
許可を得てこゝに掲載させていただきます。(編輯部)

一、緒言

神戸市保育會の研究問題に致しまして、私達は幼児の「家の畫」について研究することにしました。其の最初の目的は此の研究に依つて幼児が各々の家庭に對してどんな觀念を持つて居るか、即ち各々の家庭生活と言ふものが幼児に對してどんな影響を持つてゐるかと言ふ事を幼児の畫を通じて調査したいといふ所にあつたのであります。ところがそれは調査の方法に依るためか、又は幼児の心理そのものに依るためか、其の最初の目的は充分に果し得なかつたと言ふ感じがあります。が何れにしても私等は此の研究を通じて幼児の心の發達や幼児の興味の有する所を知り得る點で多くの得る所があつた。と存じますので茲にそれを大體纏めてみたのであります。

此の研究に参加した幼稚園は神戸市保育會に屬するもの

のうち二十六幼稚園であります。

住吉幼稚園	住吉遊嬉園	共學幼稚園	西郷幼稚園
西灘幼稚園	友愛幼稚園	菊華幼稚園	本山幼稚園
明照幼稚園	常盤幼稚園	神戸愛兒園	神戸幼稚園
清風幼稚園	楠幼稚園	報國幼稚園	兵庫幼稚園
會下山幼稚園	北部幼稚園	西野幼稚園	末正幼稚園
香盛幼稚園	慈光幼稚園	須磨幼稚園	龜ヶ池幼稚園
垂水幼稚園	播陽幼稚園		

二、方法

昭和十二年二月中に男兒一一六名、女兒一〇一名につき次の方法で調査致しました。

- 1、幼児に對する先生の言ひ方は「ミナサンノオウチナカイトゴランナサイ」(「ただけ言ふ事にし後は出来るだけ幼児の自由に委せました」)。

幼児の『家の畫』の研究、記録用紙

No.

(園名)

姓名	男女	調査日	年月日			時間	時頃	
		誕生日	年月日			天氣		
		満年齢	年月日					
A 描畫態度に就いて		1 模倣否	2 喜熱心	3 普厭	3 畫語他語	默		
B 描畫内容に就いて (以下は繪をよく見乍ら記入すること)								
1. 繪の大體の意味(畫題の大體の意味を説明し、場所、事件などの解つてゐるものはそれを加へて説明する)								
家	家の種類及びその數	自分の家の階建	軒	の家の階建	軒			
	合計	階建	軒	上記の家の中最も重要な(畫題の中心となつてゐる)家には◎印を附けよ				
	家の型に就いて右に略畫を示すこと(別圖を参考とせよ)							
	家の附屬物(庭を含む) 門、門柱、玄關、入口、扉、塀、格子、窓、破風、瓦、土藏、風呂場、便所、糞所、納屋、物干、梯子段、廊下、帳場、看板、煙突、煙、名札、水道、入口の道、庭、溝、石橋、石段、石垣、生垣、池(其他)							
家具(庭を含む) 電燈、電燈の傘、コード、タンス、タンスの引手、火鉢、火箸、ストーブ、机、机の上に花、時計、カーテン、幕、電話、蓄音器、陳列棚、水屋、屏風、襖、寢床、植木鉢、プランコ、旗、旗竿、塵箱、犬小屋(其他)								
人物	人物の種類とその人數	人	人					
							合計	人
	人物の動作(その動作が畫題と重要な關係あるものは『主』の所に記し、餘り關係がなくお添物である時は『副』の所に記す(主)(幅))							
4 家に屬しない事物及び風景(池、水の如きもので家の庭に屬することが明らかなもの)は2の方へ入れ、戶外に屬するものについてのみ記入、その境界が不明なものは兩方に入れて差支へなし 山、岡、富士山、木、花(チューリップ、ヒマハリ…不明)電柱、電線、郵便函、鳥居、道路、池、水、河、畑、空、雲、雨、太陽、月、鳥(鳥、鳥…不明)飛行機、自動車、汽車、電車、船、魚(其他)								
5 事件(特に繪全體と關係深きものは1に説明して記入し、此處では大小種々な事件を列擧するのみにて可)3の人物の動作に記入されたものは省くも可 戦争、トンド、火事、防空演習、病氣、オ客サン、寶惠龍ノ事、手紙入レニオ便ヒ、號外、飛行機ノピラマキ等、食事、おやつを食べるところ(其他)								
備考								

2、描畫材料はハツ切畫用紙クレオンに一定しました。

3、時は午前中の状態のよい時に描かせました。整理の

方法も一定するために次の様な記録用紙を使用しました。

三、結果

此の調査の結果は右の記録用紙を基にしましてその項目別に整理しました。

第一表 描畫態度について(%)

項目 性別	1		2			3			
	模倣	否	喜	熱心	普通	厭	畫語	他語	黙
男	5	95	24	41	51	4	22	10	67
女	1	99	22	30	50	2	15	7	75

年齢は四年六箇月未満から六年十箇月以上の間を男女別三箇月づつに區切りまして十一段にわけ凡て其の年齢群を基にして統計的に發達の有様を求めました。一々の結果を統計的に上げます事は餘りに煩雜に過ぎますからこゝではその大體のみを申し上げます。

A、描畫態度について、此の結果は第一表の様であります。

即ち模倣者や畫を描くことを厭がる幼児は少く且つおしやべりをしないで描くのが普通であります。

B、描畫内容について

第二表 意識の擴がりと分化(%)

項目	自分の家のみ					自分の家と他の家					事件				
	家の形	家と内	家と外	家と内	家と外	家の形	家と内	家と外	家と内	家と外					
幼	男	14	3	38	19	73	3	0	11	3	17	5	11	11	33
	女	3	20	23	13	60	0	3	7	17	27	20	7	0	37
長	男	4	4	25	15	49	1	1	22	20	45	17	13	17	46
	女	3	4	22	29	57	1	0	5	32	38	14	21	10	41

一六

1、繪の大體の意味

これには色々分け方が考へられますが其の内幼児の畫の中に含まれた世界の廣さ其の内容の分化と言ふことを主にして考へますと、第二表にみます様には先づ年少の方には自分の家のみを描くものが多く年長の方では自分の家のみを描く者も自分の

家と他の家を描くものが相半ばし、又家屋だけ、家ご其の内部、家ご其の外部及び家ご其の内部及び外部ご言ふ様にその心の擴がりを調べてみますのに年長に赴く程單なる家の形のみでなく其の内外に意識が擴がって行く

第三表 家の種類(%)

項目 性別	自分の家	友人の家	親類の家	他人の家	隣の家	その他	建方					數				
							一階	二階	三階	四五階	塔	洋館	一軒	二軒	三軒	多
男	88	6	3	15	16	6	68	37	1	0.4	0.1	3	65	20	7	4
女	87	8	3	15	9	1	68	39	0.4	0.1	0.1	2	75	21	6	3

は第三表にみます様に自分の家が絶對多數であります。これは畫を描かせる時の指示にも依りますが、さう言ふ指示にも拘らず自分以外の家も非常に多く描かれてゐるのは、幼兒は單に先生の指示に拘泥することなく、畫を描く事そのものゝ中に自分の生活を樂しんで居りま

事がわかります。自分の家と他の家と一緒に描いた場合自分の家が特に大きく描かれるものは年少に多い傾向があります。が、年長でも自分の家が特に大きく描かれるものが多いのは幼兒では自己中心性の勝つてゐる事に依るものであります。事件を現はさうとする事は年長になる程多くなりま

す。以下次第に細部に互つて全體的に統計したところの結果について申します。

第四表 家の附屬物(%)

男 兒	窓	瓦	入口	門	煙突	扉	煙	格子	梯子	看板	玄関	入口	戸	庭	物干	壁	硝子戸	石段	其他
		34	28	20	15	14	11	10	9	8	7	5	5	4	4	4	3	3	3
女 兒	瓦	窓	入口	門	煙突	扉	煙	格子	庭	玄関	戸	ガラス戸	看板	梯子	入口	植木	壁	石段	其他
	28	25	17	15	11	9	6	6	6	6	5	5	4	4	4	4	3	3	15項

して、其の心の起くまゝに描く事の多いところが察せられるのであります。

3、家の形に關しましては随分色々な現はし方がありま

して、それを發達的にみる事は非常に興味深い事ですが、此の事だけでも大きな一つの研究問題を構成し整理も未完成なのでこゝでは省略致します。

4、次に家の附屬物、即ち家屋の構成そのものについた部分の表はれについて整理したもののは第四表の通りであります。

此の表に現はさ

第五表 家具(%)

性別	家具(%)											その他			
	電燈	コード傘	電燈の傘	旗竿	旗	火鉢	植木鉢	タンス	机	商品	陳列棚	障子	引子のタンス	玩具	その他
男児	31	22	21	10	7	6	6	5	4	4	4	3	2	2	その他二三項
女児	42	34	33	15	14	10	10	6	6	6	4	4	4	3	その他三〇項

れてゐる頻数の順位は同時に幼児の興味の大きさの順を示すと思ひますが、こゝに表はれた順はそれを示すものとして大變興味あるものご存じます。

これに依りますと先づ男女略々興味の順が一定してゐる言ふ事がわかります。男児は女兒に比し平常の自由畫では家を描く者が非常に少ないにも拘らず描かせる

に女兒と同等に注意をもつて觀察して居り且つ其の細部項目に到りましては女兒よりも遙かに多いのは興味ある事であります。

5、次に家屋の構成に屬しないもの即ち家具の如きものについて其の描かれた項目を統計しましたのが第五表であります。

これに就ても前の第四表同様其の頻数順が幼児の興味の大き

第六表 人物(%)

性別	項目	種類										數				
		自分	父母	兄弟	他の家族	友人	親類の人	祖母	子供	客	其の他	一	二	三	多	
男		13	6	5	12	2	6	1	0.4	0.3	2	12	13	7	4	6
女		25	8	12	20	6	12	3	0.3	4	0	7	24	13	7	7

さを表はしてゐるご解釋する事が出来ると思ひます、これに依りますと男女共電燈が如何に幼児の注意を惹いてゐるかご分りますと共、男女の差異をしましては旗が女兒よりも男児の方からより多く注意を注がれ、植木鉢、タンス等は男児よりも女兒の方から多くの注意を注がれて居る事がわかります。

尙此家具については項目數は男女略々同數でありました。

6、次に『家の畫』の中に現はされてゐる人物について調査しましたところ、其の結果は第六表の通りであります。これに依つてみますと矢張り描かれたものでは自分が一番多く、幼兒の自己中心性が窺はれ次に兄弟、それから父母、友人になつて居ります。數に於ては一

第七表 家に屬しない事物及風景(%)

男 兒	道路	空 陽	大 陽	飛 行 機	木 柱	電 柱	花	雲	月	電 線	自 動 車	山	鳥	草	動 物	雪	其 の 他 九 項
		36	30	19	12	8	8	8	8	7	6	5	4	3	3	2	2
女 兒	空 路	道 路	大 陽	花	木	月	雲	電 柱	草	山	雪	自 動 車	鳥	星	果 物	動 物	其 の 他 九 項
	39	37	26	18	10	8	6	4	3	3	2	2	2	2	1	1	

7、次に家に屬しない事物及び風景、即ち此の度の畫の主
要問題とは離れた項目に關して、その描かれたものを統
計しましたものが
第七表であります。
これに依つてみま
す。幼兒は一度畫
を描き出すと始め
の問題とは離れて
如何に自由に且つ
楽しんで描くもの
であるかと言ふ事
がわかります。
此の頻數の順位は
大體通常自由畫に
於ける題材の順位
とよく似た所があ
りまして家を中心

計しましたものが
第七表であります。
これに依つてみま
す。幼兒は一度畫
を描き出すと始め
の問題とは離れて
如何に自由に且つ
楽しんで描くもの
であるかと言ふ事
がわかります。
此の頻數の順位は
大體通常自由畫に
於ける題材の順位
とよく似た所があ
りまして家を中心

第八表 家の職業の表現

性 別	項 目	家に 職業の 表現	職業 の 表現	家 が 職業の 表現	職業 の 表現	計
		男	4	0	10	
女	5	0	7	4(30)%	16	
男	22	0	27	19(23)%	68	
女	19	0	21	9(36)%	49	

8、次に事件につきましては表はれ方は断片的なものが多く
て纏つたものが少なく、それを記録するにも困難を感じ
ましたので、今回は其の整理を省略しました。
事件の描いたもの、百分比は大體第二表に表はれてゐる
通りであります。

9、次に最初に申
しました様に此
の研究では幼兒
が各々の家庭の
影響をどんな風
に表はすかと言
ふのをみる事を
目的としたので
ありました。然
しこれについて
は特に個人々々
の特別な表はれ
がなかつたので
ありますが其の
表現の一つとし

て考へ得るのは各家庭の職業の影響が此『家の畫』に可成り面白く出てゐたことであります。

これは特に種々雑多な商業家庭を多く持つてゐる神戸幼稚園のみについて研究してみましたのに其の結果は第八表の様でありました。

其の家庭が店舗でない家の幼児は全部職業的表現を示さず、その家庭が何かの職業を營む場所である家の幼児は第八表に示されてゐる様な百分比で其の職業を表現して居るのであります。

四、總括

以上を總括致しますのに

一、幼児の『家の畫』に於ては、個別的に各家庭の影響が表現されるよりも、寧ろ幼児一般の持つ家言ふものゝ觀念が殆んど共通的な表現に於て現はされるこがわかります。

二、家そのものゝ表現はこれを年齢的にみますと單なる家屋から出發して家屋の内部、外部、及び多くの家の並びといふ様に次第に内容が増して發達して行く事がわかります。

三、描畫に對する幼児の氣持は『家の畫』に對しても自由畫に於けると同様に自由に楽しく描く事がわかります。

四、家の種類、家の附屬物、家具、人物、家に屬しない事

物及び風景等につきまして、先に表について申上げました様な有様で、幼児の興味のあるところがわかるのであります。

(一〇頁より)

ぞかうも可愛いものか、可愛い蕾の春の花園に這入つたと同じで、天國に遊ぶ思ひがする。罪なき幼児は神の子である、感化は却つて幼児から受ける、浸みこみ幼児の尊さに打たれる、私は幼稚園が大すぎです。當園創設準備について檜山京子先生に御骨折頂いたことを思ひ起し茲に本紙上を拜借して御禮を申し上げます。

殘花聚園 (七)

(日本幼兒教育史資料)

東京女子高等師範學校教授

石川謙

五、教子報(二)

前に掲げた『鑑草』の原文に基づいて、藤樹の幼兒教育に就いての説を一應考へて見よう。藤樹の説いた所から見るに、教育は「子に道ををしへて、その明德佛性を明らかにさせる事なり。」といふ事になる。つまり人間には、人間の本質とも見るべき人間性が備はつてゐる。これが藤樹の所謂明德佛性である。かゝる人間性こそは、萬人に共通してゐるものであつて、人々個々がそれ自らの生活を、正しくするものであり深くするものであると共に、人が更に、他の人々を理解し、他の人々と協力して、一聯連帯の「全體」を形成し、「全體」としての人間の使命を幸福を全うさせる根本の性質である。教育はさうした意味での人間性を、明かに自覺させ宣揚させる世にも尊い仕事である。随つて、教育を盛んにする事によつて、人類全體が明かにな

り、幸福になり、向上する事が出来るのである。

藤樹の説くところによるに、世の中に於いて寶と呼ばれるものに、二つの種類がある。例へば金銀・玉といはれるやうな物や、名譽・位といつた様なものが、其の一つの種類であり、人間に備はつてゐる人間性(所謂明德佛性)そのものが、其の第二の種類に屬する。然し金銀も名譽も位も「人」に附くものであるから、人間性こそが、何ものにも替へ難き第一の寶である。これを自覺させ宣揚させるものが教育であつて見れば、教育は凡ての人に共通に必要な人間第一の仕事である。

二

教育を施し始める時期は、藤樹に依れば、子供が既に胎内に宿つて、未だ生れない時から始めらるべきである。即ち況ゆる胎教が之に當る。

胎教は胎内に有うちのをしへなり。この時のおしへは

母の心もちろみ身の行ひにあり。いかんまなれば、氣あつまり形かたまる始めなる故に、物にあやかりやすきゆゑなり。胎教の心もちろ慈悲正直を本とし、かりそめにも邪なる念を發すべからず、食物をもよくつゝしみ、居ずまる身のはたらきをも正しくつゝしみ、目にむざむざしたる色を見ず、耳に邪なる聲をきかず、古への賢人君子の行迹、孝悌忠信の故事を記せる草子をよみ、或は物語をきくべし。これ胎教の大槩なり。生る子のすがた形もよく智惠徳藝もすぐれなん事をねがふは、母ごこの心なれども、胎教によつて、子の容儀もよく智惠もすぐるゝ理りをわきまへざるゆゑに、胎教にちからをもちゑる。されば胎教は子にをしゆる根本なれば、よく戒めはげますべきごまにこそ。

胎教に就いては此處に深く追及する必要がない。既に生れた後に於いての教育に關して、藤樹は、子供の教育を大人の教育をば、つきりご區別してゐる。大人の世界を子供の世界、大人の心の働き方を子供の心の働き方、を、はつきりご區別して、子供には子供らしい生活を營ませなければならぬご考へた所に、藤樹の教育の最も注意すべき點がある。

三

藤樹は「子にをしゆるに、幼少を成人との差別あり。」と

いつてゐる。教育法の區別を幼少を成人との間に置いて、はつきりごつけねばならぬご主張である。幼少の時の教育に於いて注意すべき唯一つの大切な事は、惡に慣れしめない善に附かせるごいふ事である。然し惡を去り善に附くごいつても、それは、言葉の上や理窟の上なごで「説いてきかせる」事では出来る仕事でない。子供には眞似る力が非常に強い。眞似るごいふ事は、行つて得る、ごいふ事である。活動性を生命としてゐる子供に於いては、行ふ事、働く事、動く事が學ぶ事である。眞似るごいふ事も、實は目に見、耳に聞いた大人の働きを、子供の心ご身體ごの上に、再び現すごいふ事である。それ故に「幼少の時には、父母、めのごなきの心行を教の根本とす」るのである。子供を玩具の如く考へて、心にもない詐をいつたり、からかつたりする事は禁物である。子供らしいものゝ言ひまはしや行なごを戯れにして見せて樂しむ事は、百害あつて一利なしご言はなければならぬ。大人の眞面目な眞劍な信念の上に和やかな行ひが行はれる事で、子供の教育が行はれてゆくのである。

子供には子供の生活がある。「重部わざ、たはぶれごまなきをば、その子の心にまかせてあながちにいましめ制すべからず。」子供は子供らしい心の働きご身體の働きごによつて、絶へず自らを生長させてゐるのである。此の事實を見

遁して「幼少せうの時より成人のものゝふるまひをさせん」せつ
かに急ぎ立てる事は、罪惡である。子供らしさきり持つ
てゐない子供に、大人らしさを強ひる事は、「心すくみ氣屈
していなもの」に叩き込んでしまふ道である。天真爛漫な子
供らしい生活を、子供の時期に於いては充分に味はせなけ
ればならぬ。

さはいふものゝ、子供を放任して顧みないのが良いとい
ふのではない。「幼少の時には教へ戒むる事惡しき心得、
寵愛におぼれ、何事をもその子の氣隨にまかせて供樂にふ
けるやうに墮落させてしまふ事は、之また非常な誤りであ
る。」童わらわわざ、たはぶれなきをばその子のわざにまかせ」な
がらも、「心の惡あくに習なまよをば能教へ」戒めなければならぬ。

さいふのが藤樹の子供教育の原理である。子供には子供
らしい生活を生活させながら、社會生活の原理に關しては、
斷乎たつたとして子供に依らしめる所の態度がなければならぬ。
子供はいつまでも子供ではゐない。總て大人に變らなけれ
ばならぬ約束の上に立つ子供である。子供らしさを尊重し
ながらも、此の約束を忘れてはならぬさいふのが、藤樹の
教育觀の根本である。

四

随つて、人の子の母たる者は、常に自ら自分を吟味し自
分を批判して子供を育てる道に於いて誤らない様にしなけ

ればならぬ。孟子がまだ幼ない時の事であつた。外から歸つ
てきて「お隣で今豚を殺してゐるが、何にするのであらう」
と聞いたのに答へて母は戯れに、「それはお前に喰べさせる
爲だよ」といつてしまつた。いつた後から母親は、此の冗
談が單なる冗談では濟まぬ氣がついた。詐を子供の清い
心に投げかける事が、どんなに悪い影響を與へる事をひ
きく懼れ、其處で早速豚の肉を買つて來て子供に喰べさせ
た。此の昔話を引いて、藤樹は、

孟母のいのこをかひ給へる心、誠に有がたく、たへなる
教へなり。子をそだつる人たれもこの心を師しとして、其
子の我満がまんの根、あらそひそねむ根、食欲えんよくの根、狼戾ごんれいの根、
人をあなざりかろしむる根なきを、引うごかし、ならば
ざるやうに用心ようじん第一なり。……これをかゞみて、その子
にをしへいまして、ねがひもさむるところをしるべし。
此の眞面目さが心の奥深くにあつて、然ももの柔かに無
邪氣に子供に接して子供らしさを充分に發揮させなければ
ならぬさいふのが、藤樹の願ひであつた。

(昭和十四年六月十三日)

精神缺陷者の爲めの幼稚園の必要性について保育關係諸氏に懇ふ

三 木 安 正

就學前教育の必要性が、多年に渉る保育關係者の撓みなき努力により、近時彌々深く認識せられ來たつたことは、さきの教育審議會に於ける幼稚園に關する要綱によつても明確に示されてゐる。しかしながら教育の對象となる幼児全體に眼を向ける時、たゞへ現在の幼稚園が義務制となつたとしても、そこにはなほ教育の恩恵に浴し得ぬ多くの子供達が殘されてゐる。即現在の如き幼稚園のみでは特別の養護教育を要する、肢體不自由兒、虛弱兒、精神薄弱兒、盲兒、聾兒等はその對象となり得ぬからである。而して是等不幸な子供達への救済は、今や單なる人道主義的な感傷にまつべきではなく、現下の非常時局に際會し、人的資源涵養の要求の切なる時、之に適切なる養護ミ教育を施して、その性能を伸暢し、國民の「一人ミしてその處を得ざるものなからしむ」ることは刻下の急務なりと言はねばならぬ。

さて如上の身體並びに精神に缺陷を有するものゝ教育について見るに、そのいづれもが満足な状態から遙かに遠い言はねばならぬのであるが、小學校教育に關しては盲兒及聾兒の爲めの教育令がある外は、小學校令第三十三條に「學齡兒童瘋癲白痴又ハ不具癱疾ノ爲就學スルコト能ハズト認メタルトキハ市町村長ハ府縣知事ノ認可ヲ受ケ學齡兒童保護者ノ義務ヲ免除スルコトヲ得、學齡兒童病弱又ハ發育不完全ノ爲就學セシムベキ時期ニ於テ就學スルコト能ハズト認メタルトキハ市町村長ハ其ノ就學ヲ猶豫スルコトヲ得」云々

ミ規定せられるのみで、就學を免除又は猶豫されたものを如何にするかは全く不問に附されてゐるのである。そして夫れ等の施設に至つては、主として民間篤志家の事業に待つ状態であるが、肢體不自由兒については唯一ながらも公

立學校（東京市光明學校）の設あり、又虛弱兒についての施設も漸く期して待つべきものがある。

しかるにその發展の最も遅れてゐるものは精神薄弱兒の爲めの教育並びに施設であり、全國に一〇ヶ所の收容所と五十數個の補助學級があるに過ぎず、且つそれ等は完結した教育體系をもつて居らぬのである。しかも之が家庭に於ける困惑並びに犯罪その他社會に及ぼす影響の甚大なるを思ふとき精神缺陷兒の養護教育は正に一日の遲滯を許さざるもの云はねばならない。

この様な事情は既に早く識者の念頭にあつた事柄であつたが、今畢に淺學をも顧みず保育關係の諸氏に懇へんする所以は、今年四月東京帝大に於て開催せられた第七回日本心理學大會に際し、「精神薄弱兒の問題」が討議事項に上せられ、更にその問題の重要性が、總會の決議によつて精神薄弱者研究委員會の設置にまで到らしめ、同委員會は現在研究討議を重ねつゝ、諸般の資料を具して、内閣總理大臣、厚生、文部、司法各大臣宛それぞれの所管事項に關し建議案を提出する運びに到つたのに際し、その中の幼稚園に關する部分につき保育關係諸氏の御理解と御協力を得んが爲めの微意に出ずるものに他ならないのである。

由來日本心理學會がかゝる委員會を設置したことは今回をもつて嚆矢とするが、この非常時局の下に心理學を以て

結ばれた者が、その独自の立場をもつて、萬民輔翼の實を擧げんこの熱意を示したこゝ、並びにその第一着手として精神薄弱者の問題をこり上げたこゝは、誠に意義深きこゝと思はれ、更にこの機會に學理を修めるものこゝ、實際に携はるものこゝの緊密なる協力が一層深く願はれるのである。

二

精神病兒の處置については幾多の困難が存するが、まづ教育的に見ればその理解と把握が貧弱である爲め教育技術上非常な努力と忍耐を必要とし、しかもその努力にもかかはらず、教育の効果が普通に期待せられる程擧つて來ないさいふこゝである。これが始めは非常な熱意をもつて此の仕事に従事せんざしたものをして漸次に失望せしめ、同時に家庭及び社會の斯教育に對する期待を消失せしめ、目前の效果のみを期待する如き爲政者或ひは教育者をして、普通の子供の教育さへ充分に行はれて居らぬのに、效果の擧らぬものに多大の費用を費す餘裕はないと言はしめる理由になるのであると思ふが、之に對して、まづ效果の期待さいふ點についてそれらの人々の考へるこゝは、普通兒童に對する教育の效果と同じ水準を期待する結果であつて、生來五の素質を有するもの三十の素質を有するものこゝを同等に評價するのが誤りであるこゝに氣附かぬのである、しかもその結果五の素質を有する者が十の素質を有する者と同じ

様に役立たぬといふ理由で五の素質のあるものを零にしてしまふ理由はない。又費用の點から見れば現在その爲めに消費したものが、直ちにそれ丈の効果が無いとしても、もし是等を放任しておいた結果、後に至つて生ずる社會的な困惑、損害を計算するならば、むしろその位の費用は少なきに過ぐるとも云ふことが出来よう。例へば放置せられ精神薄弱者が無心に火を弄び、それが大火の原因となれば一瞬にして巨萬の資財を烏有に歸せしめる如きことは屢々起り得ることである。即生來五の素質を持つ者をしてマイナス(一〇)の者にする必要は毫も存在しない。五の素質を有する者には五の働きを爲さしめれば、その効果は百パーセントと云へるのであつて、その爲めには彼等をして働かしめ得る用意と場所を作つてやらねばならぬ。例へば現在の生産様式では一人の労働者の分擔する仕事は細かく分化されてゐるから、その中のある種の作業は精神薄弱者にまつても容易になし得るのであるが、彼等にまつて困難なることは、彼等が普通の労働者と同じ職場に働く際の同僚との關係及び家を持つて世事に處して行くことにあるのであるから、その様なものには適當な指導者の下に彼等のみの住居、職場を興へてやればよいので、外國にはすでにかゝるコロニーシステムが行はれてゐる處もあると聞いてゐる。しかし精神薄弱者の爲めのコロニーが出来るまでに至らず

とも、それが比較的輕度のものであれば、彼等に可能な職業教育を施し、適當な職場を興へ、監督官の輔導の下に生産に従事せしめ得ることは勿論可能である。實際に於て現在の如き働きの不足な際には、可なり多くの精神薄弱者が仕事に従事し、相當の能率を擧げてゐるが、たゞそれを放任する時には、測らざる災害をひき起さぬことは保し難いのである。

以上の如き事柄に對してさきの委員會は全般的に研究を進めてゐるが、その様な途に進ましめる爲めには、まづ幼時期に於ける出發を誤まらぬ様にしなければならぬ、しかもそれはなるべく早期の處置をせねばならぬ。

之が爲めには、各教育機關に兒童鑑別所又は鑑別委員を置き、普通幼稚園には適せぬ子供、或ひは、小學校教育以前になほ準備時代を要する子供等をば特別幼稚園に收容せしめ、或ひはさらに重症なる者は保護施設に送る等の處置をなさしめるべきであるが、なほ特別幼稚園では、元來精神薄弱ではないが、病弱のため、或ひは環境乃至教育的缺陷の爲め、あたかも精神薄弱の如き遲滯を示し、或ひは社會性を缺く等の性格異常兒を收容して、學齡期の教育に耐え得る丈の用意をなさしめる必要がある。ここに現在の幼稚園では、甚だしき遲滯兒は入園時に除外せられるとして、性格的缺陷兒は相當に見出され、それらの幼兒の爲め

に保育上の困難は倍加されてゐるのであるから(註一)この點については特に幼児教育關係者の共感を得られることと思はれ、又之れに適切な處置をなす時にはその効果も大いに期待し得られるのである。

グラッスルによれば、就學の始期、學校の卒業期等は性格の問題上の危機であることせられてゐるが、かゝる時期に社會生活に順應し得ざる爲めの障礙は從來比較的問題にされずゐるに思はれる、勿論精神薄弱兒等の異常兒にあつては、その重要性が一層大なのであるから、特別幼稚園は後の教育に耐え得る丈けの用意をなす場所ならねばならぬのであつて、さきに教育審議會で決定せられた要綱の第二條保健並ニ躰ヲ重視シ之ガ刷新ヲ圖ルコト、及び第四條家庭教育ノ改善ト併セテ幼稚園ノ社會的機能ノ發揮は特に異常兒に對する特殊幼稚園の使命でなければならぬ。

三

假りに、然らば特殊幼稚園の對象となる幼児の數はどの位あるか云へば、所謂精神薄弱兒とせられるものは大體百人につき三人内外と見られるが、その内重症なるものはここに云ふ特殊幼稚園とは別の保護施設に向けられるのが適當であり、その内比較的輕度のもの及び精神薄弱とせられずとも所謂劣等兒と呼ばれるもの、並びに正常に近き智能を有するも言語障礙を有するもの、及び性格異常を有

するもの等がこの場合の對象となるが、その數は前二者に關しては若干の調査が存するも(註二)後の二者については我國での資料は殆んど無き爲め、正確な數字は出し難いが、今假りに少しく内輪に見積つて前二者を二%、後者を同様二%とすれば合計四%の割合が考へられ、幼稚園期幼兒總數を八百萬とすれば、その實數は三十二萬となる。さらに、一組に收容すべき幼兒數を平均十五名とすれば約二萬のクラスが必要ならう。然して之を普通幼稚園又は託兒所に二クラスづつ並置せしめることすれば一萬の幼稚園託兒所にこの附屬施設を要するわけである。勿論、特殊兒童のみの獨立の幼稚園の出來ることは一層望ましい。さて之の數の特殊クラスを零より生ぜしめることは誠に容易ならざる業ではあるが、零から一が生ずればそれは一大飛躍であり、その効果が認識せられるに到れば一が直ちに多を呼び起すことは容易である。その意味で吾々はまつ一を生ぜしめることに努力せしめねばならぬと思ふ。敢て保育關係諸氏に想ふる所以である。吾々も亦かゝる考の下に現在コンマ以下の研究を始めてゐるが、その様なさゝやかな試の中にも顯著に見られることは、其處で彼等は彼等自身の世界を見出してゐるさいふことである。自分達の世界が與へられれば、そこには自分達の欲求が現はれる、その欲求を指導して行けば、やがて他者の中に於ける自己の地位が判り、

自分の仕事が見出されて行く。彼等が普通の子供の中に在る間は、彼等の頭上には重い壓迫が加へられてゐるのであつて、その重壓の下では、彼等は押しつぶされてしまふか、歪曲した人間にならざるを得ない。早い時期にその重壓を取り除き、彼等相應の活動場所を自信を得せしめれば、彼等に與へられた天賦のものを充分に發揮せしめることは決して不可能ではないのである。

註一、拙稿、幼稚園託児所に於て取扱ひに困る子供の調査、「教育」昭和十三年四月。

註二、奥田三郎、精神薄弱兒の教育問題「教育」、昭和十二年三月

拙稿、特殊幼稚園の必要について

「教育」昭和十四年二月

村松常雄、異常兒童の數並びに特殊教育施設に關する一考察

「精神衛生」昭和十四年一月

大阪市教育局、大阪市に於ける學業不進兒の調査

昭和十四年二月

「附記」本稿は主として都會を中心としての考案になつたきらひがあるが、農村に於ける遲滯兒の問題についてはなほ別に考慮すべき點があると思ふ。そのことは又別の機會に考察することとし、現在の農村に對しては託児所の普及といふことが最も要望せられる點であると思ふ。

(三四頁より)

育には、夏休みの必要なくもがなご思ひます次第。適當の設備を人材を得、研究を重ね、よき結論を廣く各地に普及させ度きものご存じます。

新東亞建設の仕上を擔當すべき、第二の國民を先づ第一に、體育を庶幾ふものであります。

水ミ子供の題にて、何か執筆をこのごころでしたが種々の故障のため、ほんの短時間に、書きつゞり、前後整はず、不文體をなしますが、御容赦を御願ひして筆を止めることに致します。

會 八月號休刊

本誌八月號は休刊し、九月に於て、八、九月兩月號を合冊發刊いたします。

昭和十四年七月

日本幼稚園協會

白鳥の童女

東京女子高等師範學校教諭兼教授

石井庄司

例の如く常陸國風土記を開いてみると、香島郡しのべりの白鳥の里の傳説のところが出てきた。

そこに記してある古老の話によると、むかし垂仁天皇の御世に、白鳥があつて天から飛び來り、化して童女をとめになつた。そして夕方になるまで天に昇り、朝方になるまでまた天から降りて來るのを常とした。石を採つて池を造り、その堤を築かうとした。ところが徒に月日を費すばかりで出來上らない。童女等は

しろりののがつつみをつつむもあらふまみうきはこえ……

さ歌を唱へて天に昇り、そして再び降りて來なかつた。そこでその所を白鳥郷といふところである。

古老の話は唯これだけで、單に白鳥といふ郷名の由來を説明するに過ぎないものである。所謂白鳥處女傳説の一種のものであらうが、「羽衣」のやうに漁夫も出て來ないし、羽衣もない、従つて面白味も少い。殊に童女の歌の詞は「白

鳥の羽が堤を包むとも」「こいふ前半分だけはさうやらわかるが、後半「あらふまみうきはこえ」は意義不明である。傳へがしつかりしてゐる不完全な説話である。

然しさういふ不完全なものながら、此の話にはまた此の話なりの單純な素樸味があつて、さここなく捨て難いものがある。

白鳥が飛び降りてきて童女になつたが、夕方になるまで天に昇り、翌朝は再び降りて來る。即ち「夕に昇り朝に降り」こいふこを繰返すのである。それが面白いと思ふ。

池を造り、堤を築かうとしたが、月日を経るばかりで成功せず、そこで遂に天に昇つて再び降りて來なかつたこいふのは、下界に即ち地上界に何かよくないここの起つたこを示してゐる。これは羽衣を漁夫に取りられたこいふこをこは違つたものであるが、兎に角よからぬ事の出來たこを示してゐる。池を造り堤を築くこいふ農業こいふ人間の生活に非常に近いこを物語つてゐるところに、現實性があり、また當時の説話者の生活環境をも物語るものである。

一體古風土記には、白鳥に關する傳説が多く收められてゐる。就中最も有名なのは、餅の的の話であらう。これは風土記逸文の一で、神名帳頭註或は諸社根元記等に見えるもので、山城風土記にあつたものである。稻荷の社の縁起を述べる話で、秦はたの中家なかついへ忌寸いさな等が遠祖伊侶首いとむねの秦公はたのみかみは、稻を多く所有してゐて富裕であつた。そこで多くあるにまかせて、餅を的あてとしたまことが、忽ち的は白鳥しらとりになつて、飛び去り、山の峰に至つて、そこに稻が生えた。そこで社の名なとしたまいふのである。

これは現存の豊後國風土記にも同様の話が見えてゐる。むかし郡内の百姓、この野に住み多く水田を開き、糧食を餘して畝あきにまきめ、甚だ富裕ゆたかになり、遂に奢る心が出てきて、餅を作つて矢を射るあてとした。まことが餅は忽ち白鳥しらとりになつて南方に飛び去つた。その年の中に、百姓は皆死に絶えて、遂に田は荒廢に歸したまいふのである。(これは秋の稻の實る頃に、子供に話すのによい話うたと思ふが、いまは暫くおく)。

同じく豊後國風土記には、白鳥の話がある。これは白鳥が北から飛び來つて、村に集りその鳥が餅もちになり、更にしばらくの間に数千株の芋いもになり、それが冬季になつても枯れなかつたので、これは「至徳のしるし乾坤のしるしなり」として、朝廷に奏聞した。天皇は詔して、「豊の國」とよのくにとまきつ

たまひふ。

もう一つは、近江國伊香郡いかご與胡よこの郷伊香の大江の話で、完全な白鳥處女傳説である。八人の天女が白鳥しらとりになつて天から降り、伊香の大江の南の津で水浴をしてゐた。時に伊香刀美いかごのみさいふ者があり、西の山にあつて遙かに白鳥を見つて、その形のめづらしいのを賞あやんで、これは神人であらうかか疑ひ、行つてよく見るま實に神人であつた。ひそかに白犬を遣つて天の羽衣を盗み取らしめて、一番下の妹の衣をままつて隠した。天女は人間に見つかつたまままつて、天上に飛び昇つたが、七人の姉たちは天に昇るあままが出来たが、一番下の妹だけは昇るあままが出来ず、遂に此の土地の民たままになつた。そして伊香刀美いかごのみさいの間に男二人女二人の子をもうけた。これは風土記逸文で帝王編年記養老七年の條に引かれてゐるものである。

かういふ話に比べてみるままま、常陸國風土記所載のものはままままに簡樸なものである。白鳥里は和名鈔にも鹿島郡白鳥郷しらとりと見えてゐる。また鹿島郡大和田村主石神社の梁牌の銘に「白鳥莊徳宿郷とくしゆく」とある由で、徳宿村に白鳥社があるまままいふ。自分はまだ白鳥郷を訪れたまままことはないが、先年、鹿島郡の神かみの池から鹿島神社まで歩いてみたまままがあつたが、殊に砂丘の松林の中に湛たままへられた神池を見て、坐まままろにかういふ白鳥の傳説の面白味を感じたまままがあつた。ちよ

うき夏向であるから、此の話を子供に聞かせてみようと思ふ。

二

うれしいうれしい夏休が来ました。

花子さんは、お母さまとお兄さまと一所に、海岸のお家へ出かけました。

二時間も三時間も、汽車に乗つてそれからまたバスに乗つて行きますと、松林の多い海岩に著きました。

花子さんもお兄さまも、大よろこびですぐ海岸に出かけました。廣々とした砂濱で、そこにはザーツ、ザーツとさしづかに波が押し寄せては、かへつて行きます。波の引いた後の砂地は本當にきれいで、花子さんはお靴をぬいでぎんぐ歩きました。

大きな波が追つかけて来るを、すぐ濱の方へ逃げ出します。波が引いて行くを、また歩き出します。まるで、波を追つかけてをしてゐるやうで、ひざりでにキャツキャツとさわぎたくなります。

花子さんは、お兄さまと一所に毎日海岸へ遊びに出かけました。

お兄さまは浮ぶくろを持つて、ぎんぐ遠くの方まで泳いで行きます。花子さんはまだ泳ぐことが出来ませんので、一人で濱邊に待つてゐました。

お砂でお山を造つて、トンネルをこしらへて、ビーゴーマ小さな汽車を走らせました。またお池を掘つて、水を入れましたが、お砂がぎんぐ崩れてしまつてぢきに駄目になつてしまひます。

お兄さまは、ぎんぐ海から上つてきて、

「花子ちゃん、何してるの。こんなお池なんか駄目ぢやないか」。

さいつて、足で踏みつぶしてしまひます。

花子さんは泣き出しさうになりました。その中にお兄さまは

「僕はこんごは、あの岩のまゝまで行つて来るよ」

さいつて出かけました。

花子さんはまた一人でせつせとお池を掘つてゐました。

「誰か手傳つて下さるさうがな」

と思つて、一生懸命小さいシャベルで砂を掘つてゐました。

そのとき空の方でバタバタ音がしたと思ふと、花子さんのゐる前の波の上に、一羽の白い鳥がすうと浮かんできました。

「あゝ、きれいな白い鳥が来た」

さびつくりして見てゐると、その白い鳥は波の上で二三度バタバタと羽をひろげました。するに忽ち可愛い女の子になつてしまひました。その女の子は

「花子さん、一所にあそびませうね」

さ、砂濱の上に歩いてきました。そして白いシャベルですくくさお砂を掘つてお池を作つてくれました。さんなに水を入れても、崩れないよいお池になりました。

「こんざはトンネルをつくりませうね」

さいつて、長い長いトンネルを掘つてくれました。

かうしてたのしく遊んでゐましたが、もうおひる頃になりましたので、花子さんはお兄さまと一緒に家にかへりました。

あくる日、海岸へ行つてみるさ、また可愛い女の子がここからさもなく、出てきて、花子さんにお池を掘つてくれたり、トンネルを作つたりしてくれました。

花子さんは夏休中ずつこの可愛い、女の子とお友だちになりました。
(をばり)

(三六頁より)

その次は学校の畑のキャベツさ、トマトを切紙した。キャベツは色をぬつて切つた。幼稚園の畑にも小さい乍らあつてみんなに親しみ深いものなので大へん面白く、これもおまゝごにまはりの葉を使った。今度はキウリを、幼稚園のがなるのをまつてしやう。又南瓜も、夏大根も、茄子も、幼稚園に植ゑた材料が次々出来るのが待たれる。

今夏の本會主催保育講習は本號廣告の通り七月二十七日から五日間東京女子高等師範學校に開催されます。其の講習内容は、つぎめて實際に即し、實際に直ちに役立ち得るやう、保育の新方向を示すもので、倉橋主幹は特に保育全體を見通して、幼稚園さいふものゝ正しい姿を實際的に説明せられる筈です。全國多數の方々の御出席をお待ちします。

倉橋先生と戸倉先生の幼稚園講習が七月二十一、二の兩日、大阪私立幼稚園聯盟主催で大阪市に。八月十、十一、十二の三日間吉備保育會主催で岡山市に。同十四、十五、十六の三日間長崎市保育會主催で大村町長崎縣女子師範學校に開催せられる豫定と聞いて居ります。又、及川先生と小島先生の講習が三重縣社會課及び同保育會主催で八月上旬津市に開催せられる由です。

水と子供

日本大學幼稚園 山田 伸子

水は子供に思ふだけでも、此の頃の様にお暑くなります
と、心が躍る様な氣が致します。

子供の遊びの中で、凡そ倦かすにだれでも好きなものは、水遊びで御座いませう。

お砂のお手々を洗ひに行つては、其の儘水遊びにかはり、洗口場でも直ぐに又水遊びになつてしまひます。

お暑さに特に子供は水ほご親しいものは無いと思ひます。勢のいゝ鯉の様に、水に誘はれ、水にさからつて、ピチ／＼遊び子達のなんざ末たのもししい美しさで御座います。

私は幼稚園に、總ての衛生設備、體育機關がほしいものと、常に思つて居るもので御座いまして、先年(昭和六年)其の一部として、幼児用プールを設けました。夏季に於いて、草木が生ひ繁り來年の花の仕度が、芽蒔まれると同じ様に、子供の成長も亦此の夏季に於て最も著しい發達を遂ぐることを思ひます時、充分なる鍛練と、周到なる養護とは、絶對的に必要であると思ひます。

然るに用意の不充分なる處、兎角倦怠、病因の芽蒔む時季となる事多きは、誠に遺憾のこころ存じます。此の時季こそ、規律正しく習慣づけられた起居を助長し、身體を精神を健かに伸ばし得させ度く思ひます。

斯の見地より、右プールを中心とした夏季保育施設八年間の實施状況を申し上げて、幾分にも参考となりませう。こころが御座いましたら幸ひ存じます。

施設概要

一、期間 七月二十六日より八月十五日まで(三週間)。
一、プールの位置

北と西を背負ひ、かぎの手に建てられた園舎に添つて、東と南の日光を充分に受け、東南二方は、藤棚、砂場、お山を取り入れ、生垣を以て圍ひ、プールの出入は園舎の廊下より行ひ、管理を充分に容易に致しました。

一、大きさ形状

廣さ、六二、〇〇平方米
深さ、二〇センチより、六五センチまで、底面傾斜、シ

シャワー及手洗場附設。

尋常科四、五年生までの各種泳法指導可能、幼児にも危険なし。

一、用水

水道を使用し、毎日換水す。

一、入園手續

身體検査により、傳染性疾患なきもの、百二十名を定員とし、園児を收容し、餘裕ある場合は、小學一三三年生を、同じく身體検査の上入園を許可す。

一、健康診断

毎朝、園醫の來園を得て、プール入否を決す。

一、日課要項

午前七時三十分。

運動場にて、國旗掲揚式に初まり、宮城遙拜、入室の上、

第二回目の放送ラヂオ體操、訓話の後、各組毎の部屋に於て、毎朝の身體検査、

午前八時三十分

小學部、學習輔導。

幼稚部、豫定の保育に入る。

午前十時半

幼稚部を主とし、小學部共、交互プール入水、

正午

三四

教師と兒童、たのしきお晝食後、幼稚部は歸宅、小學部、

午後一時半迄、休養、(此の間、お話、午睡)。

一時半より、三時まで、プール入水、泳法練習、三時半、

おやつ、遊戯、競技、歸宅。

一、プール使用上の注意事項

入水時、耳に綿栓をなし、プール周辺にて、日光浴。上りたる時は、シャワーに必ずかかりて、よく拭き取り、腹巻をせしむ。

其の他醫師の注意勵行。

結果

一、身體上

保育の初めより、半ば頃迄は體重に於いて稍々減少を見るも、末期に至りて當初より、多大の増加を示す。

一、精神上

各自共、元氣潤達明朗となり、樂しき生活限りなく、一人として、歸家を欲せず、平素の幼稚園、學校と異り全く新世界の觀を得て、心身共に其の時を得たる成長を遂げつゝあるを思はせませす。

一、所感

毎年家庭よりの聲として、十六日からのお休み中を如何にせばと、連續を希望する状態にあることより、幼児の教

或日の觀察

附屬幼稚園
清水光子

(一)豆の花と實

去年の冬近く果物の空箱に蒔いたえんぎうが二本だけけ
さい寒さに負けずに残つてゐたのが、僅乍ら花をつけ、可
愛いゝさをいくつかつけた。自分達の草花に毎朝ミ歸り
にきまつて水をまくその日のお當番のAちゃんの水をかけ
乍らふさそのさやの一つをみつけた。「や、お豆がなつて
！」傍にゐた私も驚く位の喚聲だつたので砂場にゐた少
しの子ぎも達も、靴をはきかへてゐた二三人も皆何だらうと
そばによつて來た。私にすれば、「エンドウ」ミかいてある
のにお豆がなつてゐるのをみつけたのにそんなにも驚いて
……こも考へられるところだけれぎ、集つたみんなは、
「あら、ほんまうだ」ミ言つてさわつてみる。「みへない
や」「ミ口をさんがらして後の方から押してゐる子もある
位。するこ又誰かが「こゝ」にもお豆がなつてゐるわ」ミ、やは
り箱にまいた實に貧弱な、しかし眞赤な花を一輪つけたス
イトビーをさして新しい發見を誇つた。一寸の間黙つて
ゐた私は「ミうれ、みせて頂戴」ミ言ひ乍ら箱の傍にしやが

んだ。ほんまうに、「エンドウのお豆大分大きくなつたの
ね、あら、これはお豆が三つ入つてゐるのね、ふくらんで
るでせう」、「うん、こつちのは二つだね」Bちゃんと言ふ。
「こちらもお豆が入つてゐるわ、赤いスイートビーのお花の
方にも」、「おんなしだね」Cちゃん。「えゝこちらもお豆ね。
ほらこのお花の形、エンドウの白いのスイートビーの赤い
のミ、ほら、よく似てるでせう。こんな形のお花の咲くのは
みんなお豆が出来るのよ。藤だなお豆がなつたでせう、
藤の花もそつくりの形だつたのよ」私は「こゝ」で言ひ過ぎた
かな、今こゝにない藤の花なんかもち出したして、ミ思
ひ乍ら「エンドウのお豆まだ」なるわ、まだこんなにお花
があるから、澤山なつて大きくなつたらみんな分けてい
ただきませうね」。ミ言つた。特に構えたのではなくて思ひ
がけなくよく觀察が出来たやうな氣がした。えんぎうミス
イトビーの實はその收穫の時にきつて更に楽しい觀察が出
来る事ミ思つた。

(二)ひなげしの花と實

外の花壇の前へ机を出してひなげしのぬりゑをした翌日「先生、きれいな花びらでせう」得意顔でひなげしの赤い花びらを両手にのせてもつて来たDちやんはすぐ「あら、ごこで」「ごこで」ミ女の子達にきかれた。「Dちやん、きのふの塗りゑのお帖面のお花のまごころへはさんでそつごひき出しに外のお帖面の一番下に入れておおきなさいね、きれいになつてよ」ミ言ひおいて三三人ミ一しよに花だんへ行つた。散つたひなげしの花びらをみんな拾ふ。すぐ拾ひきつてしまふ。もつきれいなのが欲しいやうす。「きのふ上向いてゐた薔だつたのが今日さいたのね、このお花よ」ぬりゑをし乍ら下向いてゐる薔が上を向くまごき咲く話したので子さも達も「これあした咲くのねきつご」「これはまだね、下向いてゐるわ」なご言つてゐる。この三三人の子さも達もそれぞれぬりゑのひなげしの花の處へ花びらをはさんだ頃今日切紙は女の子さも達はけしの花をしやうごお机を外にはこんだのであつた。花びらの形も、つぼみの感も女の子らしい表現で、思ひなしかいつも切紙より感が出て來たし愉快さうであつた。

(三) 野菜のいろいろ

都會の子さもには特に、お野菜をそのまゝ見せたい、こはよく倉橋先生が仰言るごこであるがそれをごうしてみせたらいゝかごこれまで種々にして來てみた。八百屋の店を

こしらへたごこもあり、粘土でこしらへた事もあるが此度は大きい紙で切紙にして見た。切紙の帖面では少し小さいし白いものに都合がわるいので大たいハトロン紙を使つた。これは全部包紙を利用してし度かつたのだけれぎ足りない分をハトロン紙にした。野菜はどれも出来るだけそのまゝを、出來れば幼稚園に出來たのをすぐ見乍らし度いのだつたがそう出來ないものは買つて來た。一番初めの日は私の家に二十日大根が眞赤に太つたのでそれをもつて行つた。子さも達の來る前にお盆にのせて机の上ののせておき、赤くて可愛いゝきれいなのをみんなが注意した頃「これ先生のお家の畑に出來たのよ、ハツカダイコン」ミ言ひ乍ら、白い小かぶご、そら豆をそへて切紙をはじめたのである。

そら豆はさやのをみんなにむいてもらひ、みんなが切紙がすんだあごゆでて少しづつわけていたゞくのも楽しい事であつた。二十日大根ミ小かぶはまゝごこに使つた。いつもの草や葉よりも又別の面白みがあるのでこの日のまゝごこにはお客様が格別多く、お客様になつた私は二十日大根を花形に切つたごちそうなごこしらへて腕をふるつた。「これなーに」「さつきの二十日大根よ」「そうか、中は白いんだね、きれいだなあ」ミ感心してゐる男のお客様もあつた。小かぶミ二十日大根は、チューリップのあごの箱にたねをみんなでまいたから早く太るのを楽しんでゐる。(三三頁へ)

子供との問答

十文字高女附屬幼稚園 留岡よし子

子供は御國の子、その幼い魂に「我は日本の子」といふ氣持がどれ程映つてゐるでせうか。

問 天皇陛下とはどういふお方？

答 イ、えらい方

二四名

ロ、男の方

九名

ハ、日本の一番えらい方

二名

ニ、大將

二名

ホ、勳章つけてる

二名

ヘ、宮城の人

以下一名

ト、神様

チ、生神様

リ、兵隊

ヌ、お馬に乗る人か、ういふ方

(手で人の形を造る)

ル、劍を下げて帽子を冠つてタスキ

みたいものをかけてゐる

ヲ、強いえらい人

ワ、新聞で見た

カ、天にゐる

ヨ、帽子の上に羽をつけた方

タ、宮城にゐる

レ、眼鏡をかけた方

リ、靖國神社にいつた

ツ、女の人

ネ、刀を持つてる

ナ、知らない

神武天皇とは

イ、えらい方

ロ、男の方

ハ、女の方

ニ、昔の一番えらい方

ホ、昔の天皇陛下

ヘ、靖國神社の人

ト、昔の士

チ、昔の人

リ、死んだ

ヌ、東郷元帥

ル、一番はじめの天皇

ヲ、神様

ワ、その次えらい(天皇陛下の次の意)

カ、中位えらい

ヨ、見た事ない

タ、昔のえらい人

レ、昔

リ、その人もえらい

ツ、やましいからえらい

ネ、戦争にいつた

ナ、見たことある

ラ、力持つてゐる

ム、知らない

君が代はさういふ時歌ふか

イ、紀元節

ロ、お式の時

ハ、天皇陛下のお生れになつた時

ニ、記念日

時

三、

三、

三、

三、

ホ、お誕生日 三名
 へ、國旗をあげる時 二名
 ト、月曜日(幼稚園で毎月曜日に練習する爲) 二名
 チ、旗日 以下一名
 リ、紀元節がそういふ時
 ス、兵隊さんが生れた時
 ル、神武天皇が生れた時
 ヲ、明治節
 ヲ、天皇陛下が戦争にいつてゐる時
 カ、兵隊さんが歌ふ
 ヲ、卒業の時
 タ、皇太子殿下のお誕生日
 レ、朝幼稚園へ来て歌ふ
 ソ、お目出度い日
 ツ、日曜日
 ネ、兵隊さんの時(出征の意らし)
 ナ、明日
 ラ、天長節
 ム、お正月
 ウ、神様がくる時
 キ、知らない 一六名

問

日の丸の旗は何時立てるか
 イ、兵隊さんが出征する時 八名
 ロ、紀元節 八名
 ハ、旗日 六名
 ニ、お式 五名
 ホ、お誕生日 四名
 へ、皇太子様の生れた時 二名
 ト、記念日 二名
 チ、天皇陛下が生れたり、なくなつたり、新しいお米を食べる日 以下一名
 リ、三日
 ス、「見よ東海の空明けて」の時
 ル、照の宮様の旗立てる時
 ヲ、勝つた時
 ヲ、軍人の赤ん坊が生れた時
 カ、寒い時
 ヲ、天皇陛下のお子様が生れた時
 タ、今日
 レ、おめでたい日
 ソ、朝
 ツ、普通の時
 ネ、女學校の人が神様の所へゆく時

問

宮城とはどういふ所 一六名
 イ、天皇陛下のいらつしやる所 二五名
 ロ、二重橋 二名
 ハ、天皇陛下 二名
 ニ、えらい方いらつしやる 二名
 ホ、神様がいらつしやる 以下一名
 へ、戦争して日本が勝つた
 ト、兵隊さんが拜む
 チ、旗立てる所
 リ、知らない 二九名
 明治神宮とは
 イ、兵隊さんを祀る 七名
 ロ、えらい人が祀つてある 三名
 ハ、神様 三名
 ニ、明治天皇を祀つた所 二名
 ホ、明治天皇がお死になつた所 以下一名
 へ、行つた事がない
 ト、おまゐりにゆく所
 チ、日本
 リ、死んだ時おまゐりする

ヌ、神武天皇

ル、天皇陛下がおかくれになつた時飾る

ヲ、天皇陛下を祀る

ワ、戦死した方を祀る

カ、お菓子をお貰ふ所

ヨ、天皇陛下がいらつしやる

タ、明治天皇

レ、お正月行つた

ソ、お祝ひ(七五三)に行つた

ツ、白木屋(大塚支店)の方

ネ、遠い所でせう

ナ、天皇陛下の通る所

ラ、旗立てる所

ム、知らない

問

靖國神社とは

三一名

答

イ、兵隊さんを祀つてある

六名

ロ、神様がおまつりしてある所

ハ、天皇陛下

ニ、おまゐりする所

ホ、白木屋の方

ヘ、銅像が一ぱいある所

以下一名

ト、勝つ様おいのりする所

チ、大塚にある

リ、戦争で死んだ兵隊さんなまつる

ツ、

ヌ、死んだ時おまゐりする

ル、なくなつた時おまゐりする

ヲ、お宮

ワ、二重橋の少し向ふ

カ、おまつりのある所

ヨ、兵隊さんが死んだ所

タ、違ふ神様

レ、廣いお宮

ソ、知らない

南京とは

三七名

問

イ、戦争する所

三名

ロ、支那人がある所

三名

ハ、陥落

三名

ニ、支那の所

二名

ホ、支那

二名

ヘ、支那にある

以下一名

ト、支那の國

チ、支那がある

リ、支那のお城

ヌ、日本

ル、トーチカを占領した所

ヲ、勝つた時提灯行列をした

ワ、見た事ない

カ、支那の方

ヨ、鐵砲がとんで来る所

タ、旗立てる

レ、蔣介石がある所

ソ、支那の家

ツ、占領した所

ネ、支那兵がある

ナ、陥落した

ラ、陥落した時旗立て、お祝した

ム、行つた事ない

ウ、蟲

問

漢口とは

二二名

答

イ、支那

六名

ロ、陥落

四名

ハ、陥落した

三名

ニ、支那の大砲のある所

以下一名

ホ、日本にある

ヘ、支那の國

女 一五名

イ、男児の方が返事が多く且正確、女兒は知つてゐるらしいのも違ふと恥しいと思つて云はない

ロ、紀元節、記念日の返事の多いのは間近にあつた爲らしい

ハ、子供の表現の仕方は面白い、「陥落」と「陥落した」「支那」「支那の方」等。

ニ、明治神宮と靖國神社とを混同してゐるのが意外に多くてこれではいけないと思つた。

ホ、白木屋の方(大塚支店)等は白木屋の前を通つて行つた記憶に依るらしい

ヘ、地球儀を戦地を見るものゝ様に思つてゐるのは流石に時節柄と思はせられる。

以上地球儀の外はこの一年間何かの折に話をした事があることで、一通りは耳に入つてゐる筈、殊に神武天皇に就いては最近の記憶がある筈と大人は考へるけれど。

(昭和十四年二月二十一日記)

更に加へて、本年は近々に同じ様な質問をして(南京、漢口等を省き)三月頃今一回質問して比較して見たいと思つてゐる。

(五月十日記)

ト、漢口や何か書いてある

チ、スタンド

リ、氣球、道知らない時見る

ヌ、ドイツ

ル、輕氣球

ヲ、支那のわからない所を見る

ヱ、地球儀(日本はこゝと正しく指す)

カ、日本や支那が書いてある

キ、電線や戦争してゐる所が書いてある

タ、地圖、赤い所が日本

レ、フットボール

リ、地圖の球

ツ、地圖 戦争してゐる所を見る

ネ、支那 日本

ナ、知らない

附記

六十四名出席の内松組(本年就學)

男 二四名

女 一七名

櫻組(年 少)

男 八名

ト、兵隊さんがゐる

チ、支那のお邸

リ、支那の占領した所

ヌ、陥落して萬歳した

ル、お舟に乗つてゆく所

ヲ、支那人のお城

ヱ、支那兵がゐる

カ、提灯行列

キ、兵隊さんが陥落する

タ、支那のいゝ所

レ、そこも行かない

リ、見た事ない

ツ、旗立てる

ネ、ランラク(陥落のつもり)

ナ、知らない

これは何?(地球儀)

イ、地圖

ロ、地球

ハ、地圖、兵隊がどこにゐるか 見る

ニ、地圖、支那はどこか 以下一名

ホ、地圖に書いてある

ヘ、支那や何か

問 答

三四名
一二名
三名

二八名

雪の朝

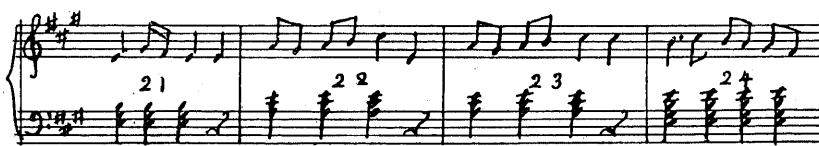
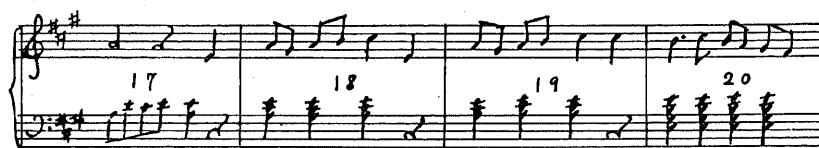
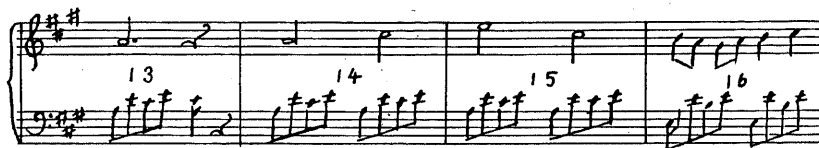
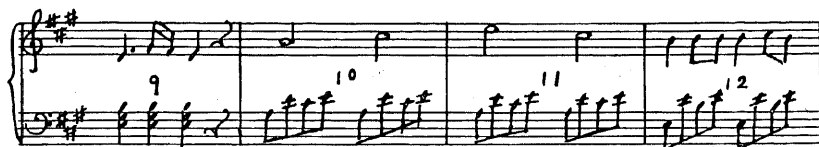
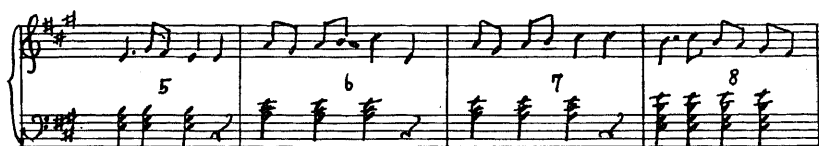
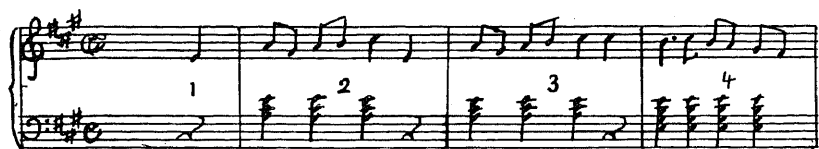
遊戯

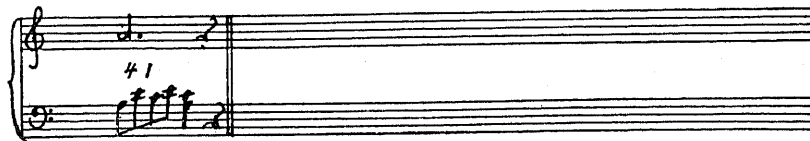
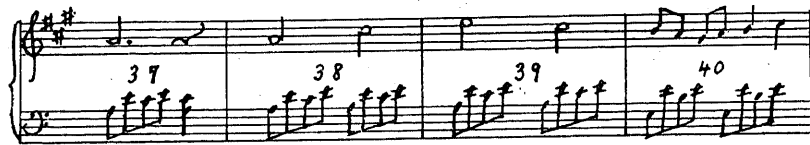
「雪の朝」

「信號を守りませう」

「信號を守りませう」

名古屋市保育會





- 雪の朝
- 全生徒三分となし、凡て軽いラ
ンニングステップとなす
- 1—3 第一班は肩組つゝ中央まで
前進
- 4—5 第二班同じ動作にて到着
- 6—7 第三班、第一班と同じ
- 8—9 全生圓形となる
- 10—11 シャンケン
- 12—13 拍手しつゝA、Bに分る
- 14—17 雪を集め合戦の準備
- 18—20 合戦、A進撃、B後退
- 21 A、勝利の拍手、B小さく
なり降参
- 22—25 B、進撃、A、後退
- 26—27 A、進撃、B、後退
- 30—33 B、進撃、A、後退
- 34—37 全生戦終つて圓形となる
- 38—40 全生拍手しつゝホップにて
一廻轉
- 41 全生萬歳

信號を守りませう

名古屋保育會
振 附

First system of musical notation, including a treble clef, a key signature of one sharp (F#), and a 2/4 time signature. The system contains two staves: a vocal line and a piano accompaniment line.

Second system of musical notation, including a treble clef, a key signature of one sharp (F#), and a 2/4 time signature. The system contains two staves: a vocal line with lyrics and a piano accompaniment line.

ア タイメ ア カイメ キイロイ メ
あをいめ あかいいめ きいろいめ

Third system of musical notation, including a treble clef, a key signature of one sharp (F#), and a 2/4 time signature. The system contains two staves: a vocal line with lyrics and a piano accompaniment line.

ア カイ オメメガ ツームツテ
あをい おめめが つーじつて

Fourth system of musical notation, including a treble clef, a key signature of one sharp (F#), and a 2/4 time signature. The system contains two staves: a vocal line with lyrics and a piano accompaniment line.

ア タイ オメメガ ヒカハリマ ス
きいろい おめめが ひかります

ア レ ハ ス ス メ ノ 信 ゴ ッ ヨ
 あ れ は ち う い の 信 ご う よ

ナ ツ ナ ト ミ テ ヲ ワ ター リ マ セ ヲ
 つ ー ぎ の 信 こ う ま ち ま セ ヲ

- 一、青い眼 赤い眼 黄色い眼
赤いお眼々が つむつて
青いお眼々が 光ります
あれは進めの 信號よ
さつさと道を 渡りませう
- 二、青い眼 赤い眼 黄色い眼
青いお眼々が つむつて
黄色いお眼々が 光ります
あれは注意の 信號よ
- 次の信號 待ちませう
- 三、青い眼 赤い眼 黄色い眼
黄色いお眼々が つむつて
赤いお眼々が 光ります
あれは止れの 信號よ
みんな止つて 待ちませう
- 四、青い眼 赤い眼 黄色い眼
みんな圓い眼 大じな眼
私も黒い眼 光らせて
道を通れば けがはない
道の信號守りませう

配列準備

一、青い眼赤い眼黄色い眼

赤い眼々がつむつて

青い眼々が光ります

あれは進めの信號よ

さつさと路を渡りませう

前奏入呼間

二、青い眼赤い眼黄色い眼

青い眼々がつむつて

黄色い眼々が光ります

あれは注意の信號よ

次の信號待ちませう

三、青い眼赤い眼黄色い眼

黄色い眼々がつむつて

圓形

圓心に信號機を置き之を中心にして四人にて左手にて信號機を持ち十字路を作る

1、外生 拍手して右へスキップ

2、内生 準備のまゝ

1、外生 座して信號機さす事四回

2、内生 信號機中心に右へ一廻轉

左へ反復

1、外生 足踏して四等分して四分の一前進

2、内生 準備の形

1、外生 前の子の肩に兩手を掛け四歩にて四等分の一列づつが圓心に進み最後の一

呼間にて内生の右手につかまる

2、内生 左手にて信號機を持ち外生を待つ

其のまゝ風膝四回

1、外生 後向になり兩手車輪様にまはしつゝ八歩にて元の圓形に歸る

2、内生 膝を屈し兩手膝の上にて組み其まゝ圓を作る、立つと同時に頭上に兩手に

て圓を作る事四回

1、外生 拍手し二回信號機を指さす事左右に

2、内生 準備のまゝ

1、外生 座し拍手入回

2、内生 信號機中心に右へ一廻轉

1、外生 拍手しつゝホップ左右二回づつ

2、内生 準備の形

1、外生 上下作圓して右へ八歩前進す

赤いお眼々が光ります

あれは止れの信號よ

みんな止つて待ちませう

前奏八呼間

四、青い眼赤い眼黄色い眼

みんな圓い眼大じな眼

私も黒い眼光らせて

道を通ればげがはない

道の信號守りませう

2、内 生 準備のまゝ

1、外 生 肩を組み屈膝入回

2、内 生 右足一步退き右手にて信號機を指す事左右四回行ひ四人連手して信號機を

中心に圓を作り

1、外 生 座して拍手入つ

2、内 生 連手右へ一廻轉

1、外 生 四等分一列つづ連手して右へスキップ

2、内 生 スキップにて外生四等分の一列の各々の先頭に入り四つ圓を作り連手して

一廻轉左へ反復しつゝ元の大圓を作る、右手にて眼鏡の形、次に左手同じ、
首を左右にまげる、圓心に四歩進み兩手胸に組み頭左右にまげる

兩手腰にとり兩足揃へて左右へどび

拍手しつゝ後退し兩手上に擧ぐ

この遊戲の、曲、歌詞、振付は第四十四回關西聯合保育大會で發
表せられたものであります。許しを得て茲に掲載させていたゞき
ました。

(編輯部)

ハイディ

(第十六回)

津田芳雄譯

——お父さんは息子を見るこ、かはいさうでたまらなくなつて、駈け出して行つて抱きしめました。息子は、『わたくしは天に對しても、お父さんの目の前でも、罪を犯しました。もはや息子と呼んでいただくねうちはありません』こいひますが、お父さんは召使ひ達に伝附けました。『一番よい著物を持つて来て着せてやれ。指には指環を、足には靴を著けてやれ。一番よく肥えた襪ソックスを履はり、料理して來い。みんなで楽しく食べようぢやないか。わしの死んだ息子が生き返り、ゐなくなつてゐたのが歸つて來たのだが』そこでみんなは、大よろこびでお祝ひをしました。

——ねえおぢいさん、美しいお話でせう?。

ハイディはおぢいさんが、きつこびづくりにして悦ぶだらうと思つてゐたのに、一言も口を利かず

に坐りつづけてゐるので催促をした。

「おお、全くお前のいふ通りぢや、美しい話ぢやのう」

おぢいさんは答へたが、非常に眞面目な顔をして考へ込んでゐるので、ハイディも黙つて繪を見てゐた。やがてその繪をしづかにおぢいさんの前に差し出し、

「ほら、こてもうれしさうにしてゐるでせう?」

こ云ひながら、お父さんから又いただいた立派な著物を著て、うれしさうにお父さんのそばに立つてゐる「歸れる蕩兒」の姿を指さした。

二三時間して、ハイディが眠つてしまふこ、おぢいさんは梯子をのぼつて行き、ハイディの顔がよく見える所にランプを置いて、ちつこその寝顔に見入つてゐた。お祈りを云ひながら寢入つてし

まつたのか、手は組み合はされたままで、小さな顔には何もかも任せ切つた安らかさがただよつてゐた。おじいさんは深く感動した様子で、長い間そこに立ちつくし、無言でぢつと眺め入つてゐた。やがておぢいさんも手を組んで、頭を垂れて云ひはじめた。

「神様、わたくしは天に對し、あなたに對し、深い罪を犯しました。到底あなたの息子ミ呼んでいただくねうちにはございせん」

大粒の涙が二すぢ、おぢいさんの頬をつたつて流れ落ちた。

翌る朝早く、おぢいさんは小屋の前に立つて、しづかにあたりを眺めてゐた。朝の清々すがすがしい太陽が、山にも谷にも輝いてゐた。はるかに谷をわたつて、教會の朝の鐘がひびいて來て、小鳥は椈の木で朝の歌をうたつてゐた。おぢいさんは小屋にもぎつて、ハイディを呼んだ。

「出ておいで、ハイディ。お日様がのぼつたよ。一番いい著物を著て來なさい。これから教會へ行くのぢや」

ハイディはすぐに支度をして出て來た。こんなお呼びはいつにないこゝなの、大いそぎで來た

のだつた。ハイディは氣の利いたフランクフルト仕立ての服を著てゐたが、おぢいさんを見るまゝ、びつくりして立ち止まり、大きな聲で叫んだ。

「まあ、おぢいさん！ おぢいさんのそんなにしていらつしやるの、わたしはじめてよ。あら、上衣に銀のボタンがついてゐるね。おぢいさんは、いいおべべを著るまゝ、さてもすてきだわ」

おぢいさんは微笑みながら答へた。

「お前もなか／＼きれいちや。さあおいで」

おぢいさんはハイディの手をひいて、山道を下つて行つた。あちこちから教會の鐘がひびいて來て、村へ近づくにつれ、ますますその音は、高くゆたかに鳴りわたつた。ハイディはうれしさうに耳を傾けた。

「ねえおぢいさん、お聴きなさいよ、まるでお祭りみたいね」

ハイディもおぢいさんがデルフリデルフリの村の教會へ這入り、後の席うしろに腰かけた時は、もう信者たちは集つて、讚美歌を歌ひはじめてゐた。けれどその歌も終らないうちから、みんなは互ひにうなづきながら、囁き合つてゐた。

「ごらんよ、アルムをぢさんが、教會に來てる

よ！」

やがて教會ぢうの人にこのこゝが傳はつて、女の人たちは何度も振り返つて讚美歌をまちがへたりした。だがやがてお説教がはじまり、牧師さんが力をこめて、温い感謝に満ちた調子で話したので、みんなはなにか大きな喜びが訪つたやうに感動しながら、熱心に聴き入つた。

禮拜がすむと、おぢいさんはハイディの手をひいて牧師さんの家へ行つた。みんなは珍らしさうにそのあきを見送り、中にはおせつかいにも、わざ／＼ほんたうに這入るかぎうかを見届けに、ついで行つた者さへあつた。おぢいさんは這入つて行つた。するゝみんなは思ひ思ひに環になつて、この不思議な出来事を話し合ひながら、一體おぢいさんが何を思ひ立つて、山を下りて教會へなきて來る氣になつたのか、さつぱり見當もつかないの、今におぢいさんが怒つた顔をして出て來るか、それとも穏やかに何事もなく出て來るか、ぢつと牧師さんの家の玄關を見張つてゐた。中には又、あの人も思つたほごわるい人ではなかつたのだ、子供の手をあんなにやさしくひいてやつてゐるまゝころを見てわかるではないか、と云ひ出すもの

もゐた。するゝみんなも口々に、自分達の思ひすごしであつたのかも知れぬ。しんからの惡黨ならば、牧師さんの家へなき、怖ろしくて這入つて行けるものではないのだから、なきと云ひ合つた。水車小屋の粉挽きは、ここぞきばかり進み出た。

「だからわしは、初めつからさう云つてゐたぢやないか。おぢいさんが酷い不親切な人間で、あの子が怖がつてゐたのなら、何も結構な暮しを振り捨て、わざ／＼歸つて來るわけがないぢやないか」かうしてみんなは、だんだんおぢいさんに親しい氣持を持ちはじめた。するゝ女たちはまた、ペーテルやおばあさんから聞いて來た話をはじめたので、おしまひには、まるで長い間きこかへ行つてゐた古い友達をでも待つやうな氣持で、みんなは立ちつくしてゐた。

その間、おぢいさんは、まづ牧師さんの家の書齋の戸を叩いた。牧師さんは出て來て、少しも驚かずに、まるで豫期してゐたやうにおぢいさんを迎へた。多分教會で姿を見たのだらう。この思ひがけぬ温いもてなしに、おぢいさんは最初言葉も出なかつたが、やがて心を落ちつけて云つた。

「わたしは、いづそやああなたがわざ／＼お訪ね下

さつた時申上げた失禮な言葉を水に流していた
 だけ、あんたの御親切な御すすめにかたくに楯
 ついたこゝを許していただくと思つて伺ひまし
 たのぢや。やつぱりあんたの仰しやつたこゝは、
 間違つて居りませんでしたわい。わたしはあんた
 の御すすめ通り、冬の間はデルフリ村の家を見
 付けて住むこゝに心を決めました。あの子には、
 山の上の酷い寒氣は無理ですわい。村の人が、わ
 たしを信用のおけぬ奴ちやさ白い眼で見るとやうな
 こゝがあつても、それはもごく、蒔いた種で、致
 し方もありませんわい。まあ、あんただけは、そ
 んなこゝもなさるまいと思ひますが」

牧師さんのやさしい眼には、見る／＼歡びが輝
 いた。しつかりとおぢいさんの手を握りしめ、心
 から云つた。

「よくぞ云うて下さつた。まつたくうれしいこゝ
 ですなあ。なんの、なんの、みんなも決してあん
 たに氣まづい思ひなき、させはしませんさ。わ
 たしにしてみれば、あんたは古い馴染みぢやし、
 又御近所づきあひが出来るさなれば、こんなうれ
 しいこゝはありません。ああ、今年の冬は、夜長
 にうん／＼昔話しが出來ますなあ。この小つちやい

お方にも、お連れを見付けるさしませうかい」

さう云つて牧師さんはハイディの捲毛を撫でな
 がら、その手をひいて、おぢいさんご玄關の方へ
 歩いて行つた。みんなの立つてゐる所へ來てから
 お別れの挨拶をしたので、牧師さんがまるで親友
 ご名残りを惜しむやうにして、おぢいさんご握手
 をしてゐるのが、みんなにもよく見えた。おぢいさ
 んが戸を閉めて出て來るのも待ち遠しさうに、み
 んなはごつ／＼おぢいさんのこゝろへ押し寄せて、
 われ勝ちに握手をしようご手を差し出したので、
 おぢいさんはぎれからはじめていいか、迷つたく
 らるだつた。

「ほんたうに、ようこそ降りて來ておくんなさ
 つたなあ」

昔のやうにお話しし合ひたいさ、せんから思つ
 て居つたんだよ」

なぎ／＼口々に挨拶し、おぢいさんが冬の間だけ
 村へ來て、昔住んでゐた家に住まうご思つてゐる
 さいふさ、みんなは聲を揃へて喜んだ。昔馴染み
 の人たちが澤山途中まで送つて來て、いよ／＼お
 別れになるさ、めい／＼が、今度降りて來た時に
 はきつご立ち寄つてくれさ、おぢいさんに約束さ

せた。おぢいさんごハイデイはみんなの後姿を見送りながら立つてゐた。おぢいさんの顔は、内から光りが射し照らしてゐるやうに、晴れ晴れと輝いてゐた。ハイデイは澄み切つた眼でちつと見上げながら云つた。

「おぢいさんは、今日は段々段々きれいになつて行くのね。こんなおぢいさんを見たの、わたし初めてだよ」

「さう思ふかね」

おぢいさんは微笑みながら答へた。

「その通りなのぢや、ハイデイ。わしは今日は勿體なくくらゐる仕合せぢや。かうも仕合せな氣持になれるものごは思はなかつたよ。神様に素直に仕へ、人間ご仲よく暮らすごは、よいごごぢやなあ。お前をよこして下つた神様は、ほんたうによい御恵みを垂れて下さつたものぢや」

ペーテルの小屋に著くご、おぢいさんは戸を開けて、つか／＼と這入つて行つた。

「おばあさん、こんには。木枯しがやつて来る前に、そこ／＼少し修繕しておかねばなりませんなあ」

「おやまあ、アルムをぢいさんぢやないかえ！」

おばあさんはびつくりして、大悦びで叫んだ。

「ほんたうに、長生きのお蔭だよ。あなたに一目會つて、お禮が云ひたい／＼と思つて居りました。いろ／＼ご何から何まで、ありがたうございました。こんな奇特なお方に、さうぞ神様のおむくいがありますやうに、おむくいがありますやうに」

おばあさんは、震へる手を差しのべした。おぢいさんは力をこめて握りかへすご、おばあさんはほもその手を握りしめて云ひつづけた。

「それから、心からのお願ひがありますので。もしもわたしが、なんぞあなたの氣に障るやうなごさをしても、さうぞわたしの目の黒い間は、その罰にあの子を遠くへ連れて行つてしまふやうなごごだけは、勸辨して下されや。あの子はわたしには、かけがへのないのちなんだから」

そしておばあさんは、ハイデイをしつかりさかき抱くのだった。

「心配しなごるな、おばあさん、そんなごさをすれば、わしだつて辛いのごやから、決してしやしませんぞ、これからは、みんな一緒に暮らしますのぢや。いつまでもさう出来るやう、お祈りして下さい」

ブリギッタはおぢいさんを部屋の間へ呼んで、羽飾りのついた帽子を差し出し、ハイデイが無理にそれをおいて行つたわけや、子供にこんなものを貰ふわけに行かないことを話した。おぢいさんは少しも不機嫌な様子もなくハイデイを見返りながら、云つた。

「あの子のもちやから、被りたくなければ、あなたに進せてもかまはんぢやらう。さつこきなさい」

ブリギッタは大悦びで、帽子を高々さかざして眺め入りながら、

「ほんたうに、これはたしかに五圓以上はしますよ、ハイデイちゃんはフランクフルトへ行つて、いいことをしましたねえ。うちのペーテルも、しばらく奉公にでも出して見たらさ、時々思ふんですかねえ、さうでせう、をぢさん」

「さ云つた。おぢいさんはをかしさうに眼を輝かせながら、それもわるくはなからうが、まあ何かよい機会があるまで待つた方がよからうさ云つた。丁度この時、噂の主の常人が、飛び込んで来た。あわてて飛んで来たので、入口の戸にひきく頭をぶつつけて、家ぢうがたびしと鳴つた。息

をハアハアはづませながら、一通の手紙を差し出した。手紙が来ることを、めつたにないことなので、これは今日の二度目の大事件だつた。手紙はハイデイ宛てで、デルフリ郵便局から配達されたものだつた。みんなは中味を聞かうと、テールまわりに集つた。ハイデイはすぐに封を切つて、すらすら読み初めた。クララからだつた。ハイデイが歸つてしまつてからは、家ぢうが退屈でたまらないので、クララはお父様に願ひしてこの秋にラガツ温泉へ連れて行つていただくことにした。おばあさまもそこで落ち合ふ筈になつてゐるから、みんなハイデイとおぢいさんの住んでゐるお山へ訪ねたいさたのしんでゐる、さ書いてあつた。それから、おばあさまからのおこころでさして、ハイデイがペーテルのおばあさんに白バンをお土産に持つて行つてあげたさは、大へんよいことをした。そのバンと一緒に飲んでいただくやうにさ、コーヒーを少しお送りしたから、あげて下さい。秋にはおばあさんにも是非お會ひしたい、さあつた。

みんなはこれを聞くさ、びつくりしたり喜んでりして、話はそれからそれへはづんだので、お

ぢいさんさへ時の経つのも気が付かないくらゐだつた。みんなはそのうれしい日の来るのを樂しみにしつつ、更に今日のこのおぢいさんの來てくれたさいふ大きな悦びに、又してもひたるのだつた。

「なんじ云つても、昔の親しい友達がまた訪ねて來て下さるごときほぎ、うれしいごときはないよ。親しい人は、いつかはきつご又、かへつて來てくれるご思ふからこそ、心がなごむのだよ。をぢさん、又近いうちに來て下さいよ。ハイディちゃん、あした又來ておくれだらうね」

おぢいさんもハイディも、心から約束し、別れを告げて山をのぼつて行つた。朝、降りて來た時にも教會の朝の鐘に迎へられたが、今又かへりには、丁度和やかな夕べの鐘に送られることになつた。山の上の小屋は夕陽をあびて、如何にも安息日らしい平和な姿をして立つてゐた。

おばあさまが秋いらしつたなら、ハイディにもおぢいさんにも、みんなに澤山の新しいよろこびや、びつくりするごことが起つて來るだらう。枯草の屋根部屋には、きつごほんもののベッドも造られることだらう。おばあさまが一度び足を踏み入れるごころ、必ず内も外も、不思議になにもかも

がきちんご整ふのだから。

十五、旅行のお支度

ハイディをうちに歸すやうに取り計らつて下さつた親切なお醫者様が、廣い通りをガーゼマン家の邸の方へ歩いてゐた。晴れた九月の朝で、誰の心もおのづみ愉しくなるやうな、うららかなかぐはしい朝だつた。それなのに、お醫者様はひさり始終眼を伏せて、一度だつて青空を見上げようごもしなかつた。せんにはあんなにも愉快さうだつた顔には、今は悲しみのかげが沈み、髪の毛は春以來めつきり白くなつた。お醫者様は、奥さんを亡くした後は、唯一つのなぐさめとして、眼に入れても痛くないほご可愛がつてゐた一人娘を、又この二三ヶ月前に亡くしたのである。それ以來、人が變つたやうに、あの元氣な快活さも、すつかり見られなくなつてしまつた。

セバスチャンが戸を開けて、恭しく迎へた。このお醫者様は、この家では御主人ごお嬢さんだけの大事なお友達であるばかりでなく、親切な人なので、家ぢうの者に人氣があつたのである。

「變りはないかね、セバスチャン」

お醫者様は階段を上りながら、うしろからつい

て来るセバスチャンに、氣持のよい聲でたづねた。

「ああ、ようこそおいで下さいました」

ゼーゼマン氏はお醫者様が這入つて来るを叫んだ。

「スキス行きについて、もう一度御相談申し上げねばと思ひましてね。クララはずつとよくなつてゐるのですが、それでもまだ、先生はいけないを仰しやいますか」

「いや、ゼーゼマンさん、あなたには敵ひませんよ」

お醫者様はそばに腰をかけながら云つた。

「ほんたうに、こんな時こそ御母堂がゐられる方がいいのですがね。あの方ならば、なにもかもはつきりき、萬事をうまく整へて下さるでせうに。あなたも来たら、昨日なんか、同じことを訊ねるために、三度もわたしを呼び立てるのですからね。そのくせ、わたしが何ぞ御返事するかくらゐ、ちやん御存じのくせに」

「そりやお解つてゐるんですよ。あなただつて、しびれをお切らしになるのは無理ありません。しかしまあ、わたしの身にもなつて見て下さいよ」

ゼーゼマン氏は哀願するやうに、お醫者様の肩

に手をかけた。

「わたしには、娘があんなに長い間、そればかりあけくれ樂しみにして来た約束を、今更破るにしのびないんですよ。先達てびくくわるかつた時にも、よくなればスキスへ行つてハイディに逢へるごいふ樂しみがあればこそ、あんなに辛棒つよくがまんしたのですよ。それを今更、その旅行までいけないと、わたしに云へますか。實際、そんな勇氣はわたしにはありませんよ」

「しかし、決心なさらなくちやいけません」
お醫者様は權威をもつて云つた。ゼーゼマン氏が黙り込んで情けてゐるのを見るに、ちよつと言葉を途切らせて、又つづけた。

「まあ事態を考へてみて下さい。數年來、この夏ほごお嬢さんの病氣のわるかつた夏はないのですよ。それなのに、長い旅行なきをすれば、餘計疲れてわるくなるばかりぢやありませんか。以ての外のこゝです。それに、もう九月になつてゐます。あちらでは、まだ暖くて天氣もいゝかも知れないが、又もうすでに寒くなつてゐないとも限りません。日も短くなつて来るし、お嬢さんは山の上では泊れないから、たつた二時間位しか、上にゐる

間はありません。ラガツ温泉の方からのぼつて行くには、お嬢さんは椅子にのせて擔かいで行ねばなりませんから、ずる分時間がかゝりますからね。要するに、出来ない相談ですよ、ゼーゼマンさん。わたしが御一緒に行つてお嬢さんに話させよう。聞き分けのいゝお子さんだから、きつゝわかりますよ。それに、わたしには計劃があるのです。お嬢さんは、來年の五月になればラガツ温泉に行くのです。すつかり夏の盛りになるまでそこで湯治して、夏になれば、時々山へのぼるのです。丈夫になつてゐるから、今なんか行くより、よつぽさ面白いですよ。ゼーゼマンさん、お嬢さんを癒さうと思へば、出来るだけ細心の注意を拂はねばならないといふことを、わかつて下さい」

ゼーゼマン氏は悲しさに黙つておきなしく聞いてゐるが、この時急に立ち上つて云つた。

「先生、ほんたうのことを仰しやつて下さい。實際のところ、あの子はなほ見る見込みがあるのですか」

お医者様は肩をすくめて靜かに答へた。

「まづありませんな。だが、わたしのことを考へてごらん下さい。あなたには、まだしも歸つて來

れば喜んで迎へてくれる子供さんがゐられます。歸つて來ても誰もゐないで、ぼつねんさ食事をする佗びしさからは救はれてゐられます。それに、子供さんも、たゞへ病氣で不自由はあつても、それを償うて餘りある幸福を享けてゐられます。ゼーゼマンさん、あなたはそれほご不幸ぢやありませんよ。あなたには、まだ一緒に暮らすといふ幸福がありますからね。わたしの佗びしい家と思つて見て下さい」

ゼーゼマン氏は、いつも深いもの思ひに沈んだ時のくせで、部屋ぢうをあちこち歩きまわつてゐるが、急にお医者様のそばに立ち止まるさ、肩に手をかけて云つた。

「先生、いゝことを思ひ付きました。わたしには、あなたのそんな様子を見ちやゐられませんが、すつり人がお變りになつてしまつた。しばらく氣晴らしをなさらないといけませんよ。——それで、さうです、あなたがひきつ、わたし共の代理といふことで、ハイデイを訪問してやつて下さいませんか」

倉橋惣三著

定價 送料

育ての心

東京、神田區駿河臺三丁目六

刀江書院

倉橋惣三著

幼稚園保育法真諦

東京、神田區神保町一丁目六七

東洋圖書株式會社

倉橋惣三共著
新庄よしこ著

日本幼稚園史

三、八〇〇、二〇
同上

倉橋惣三著

幼稚園雜草

東京、日本橋區、大傳馬町

二、五〇〇、一四
内田老鶴圃

日本幼稚園協會編

幼児に聽かせるお話

三、八〇〇、一四
同上

日本幼稚園協會編

幼児の樂しむお話

二、八〇〇、一四
同上

日本幼稚園協會編

幼児發達検査

東京、神田、神保町

一、〇〇〇、八
フレーベル館

淡路圓次郎著

幼児性行評定尺度

一、〇〇〇、二
同上

倉橋惣三監修
保育叢書

菊池ふじの著
徳久孝子著

人形芝居脚本

一、〇〇〇、二
同上

及川ふみ著

幼稚園の手技製作

一、〇〇〇、二
同上

膳眞規子著

自然物おもちゃ

一、〇〇〇、二
同上

和田實著

實驗保育學

一、〇〇〇、二
同上

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校校長 下村 壽一
 主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋 惣三
 附屬幼稚園主事 倉橋 惣三

日本幼稚園協會規則

- 第一條 本會ハ幼児教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼児教育ニ篤志ナルモノトス
- 第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ
- 第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ
- 第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得
- 第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
 - 一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
 - 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習會ノ開催

- 會ノ開催
 - 一、雜誌發行(毎月一回)
 - 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
 - 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
 - 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件
- 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 - 會長 一名 會務ヲ總理ス
 - 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
 - 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
 - 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス
 - 第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
 - 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ケ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
 - 第十二條 本會ハ必要ニ應シテ二委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ
 - 第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

定價

一ヶ月分	金參拾五錢	特等面一頁	二面一頁
半ケ年分	金貳圓拾錢	金貳圓拾錢	拾圓
一ケ年分	金四圓貳拾錢	金拾圓	金拾圓
拾貳冊	金貳拾錢	金拾圓	金拾圓

廣告 一等面一頁一頁以下 金拾圓 五圓 御斷り 神田區駿河臺下三丁目 廣告社に御申込下さい

（外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい）
 昭和十四年六月二十八日印刷納本
 昭和十四年七月一日發行
 幼兒の教育 第三十九卷 第七號

不許複製 禁止轉載

編輯者 倉橋 惣三
 發行所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
 印刷者 柴山 則常
 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
 印刷所 會社 杏林 舎

發行所 日本幼稚園協會
 振替口座東京一七二六六番
 東京市小石川區大塚町三十五
 東京女子高等師範學校附屬幼稚園內

注文規定

- 一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます(郵券代用の場合には換割増)
- 一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます
- 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし
- 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越な願ひます
- 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帯封に「前金切」の印章を押捺いたします。其節は早速御送金を願ひます
- 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます

今月からの手技用材料

◇七夕まつり用品——五色の短冊五枚、提灯用紙二枚、銀の星五枚をもつて一組。

五〇組 金一圓五十錢

◇盆提灯用織紙——堅緻な手漉の純粹和紙で、見ろからに清々しい水色の絞模様と鮮紅の中紙。

五〇組 金一圓

◇團扇用紙——徑四寸の地紙三柄。お子達は柄を取付け圖案を致します。

一〇組 金三十錢

◇夏休み前のおみやげ品——

木 舟 一 個 金十五錢

紙 舟 一〇 個 金二十五錢

金魚ミ風鈴 一〇人分 金二十五錢

◇模造紙の摺紙値段改正

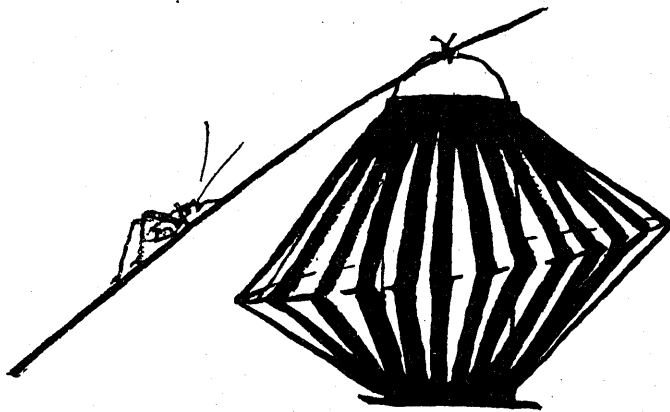
十五糎大形 一〇〇〇枚 金一圓

十二糎中形 一〇〇〇枚 金七十錢

以上は單色ミ取揃へて御座います。

九糎小形 一〇〇〇枚 金四十錢

×四月一日より一品單價參圓以上に壹割の物品税が賦課されます、お含みをお願ひ致します。



株式會社 ベーブル館

本社 東京・田神・二町保神 (33) 電話 三六六三番
支店 大阪・區東・五町後備 (24) 電話 八三九一番

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
(毎月一回) 日發行

昭和十四年六月二十八日印刷納本
昭和十四年七月一日發行

定價參拾五錢